

## 明治期における「(中央)報徳会」に関する基本的資料

前 田 寿 紀

### はじめに

本稿は、明治期における「(中央)報徳会」<sup>1)</sup>(明治38年11月～)とその影響でつくられた地方斯民会・地方報徳会による報徳会運動を分析する為の基礎作業として、同期におけるⅠ.「(中央)報徳会」の規則等,Ⅱ.「(中央)報徳会」の組織と人,Ⅲ.「(中央)報徳会」の活動,を明らかにし、整理しようとする研究ノートである。

本研究ノートの位置づけは、この後に発表予定である明治期における「(中央)報徳会」の活動を分析する論文作成の際の基本的資料を得るところにある。

本研究ノートおよび論文を作成する意図は、明治期における「(中央)報徳会」に関する先行研究に次のような検討の余地があることにある。

- A.「(中央)報徳会」が、明治後半期の帝国主義確立期、天皇制家族国家観による体制再統合期、等の時代規定のもとで捉えられている。このことは、あらかじめ作られた図式・枠の下で一部評議員の一部言葉のみを使って研究がなされてきているという状況を招いている。
- B.「(中央)報徳会」が、日露戦争後の現実問題処理(例.社会主義対策、国債問題処理、等)、さらには国民支配の手段として捉えられることが多い。しかし、それだけでは捉えきれない側面がある点が大きく見落とされている。
- C.「(中央)報徳会」やその評議員等・会員の諸活動、報徳そのものを言及した言葉、報徳を活用することを提示した言葉が、必ずしも分析されていない。このことにより、「(中央)報徳会」が報徳をどのように活用しようとしたのかという詳細な分析が妨げられている。

## I. 「(中央) 報徳会」の規則等

### 1. 「報徳会則大綱」

(『二宮尊徳翁紀念書類(上冊)』国立国会図書館蔵, 年月不明<sup>2)</sup>。)

「第一條 本会ヲ報徳会ト称ス

第二條 本会ハ一般風化ノ善導ニ資センカ為メニ宮尊徳先生ノ遺教其他之ニ關聯シタル道徳及經濟事項ヲ講究スルヲ以テ目的トス

第三條 本会ハ之ヲ東京市ニ設ク

第四條 本会ハ左ノ方法ニ依リテ第二條ノ目的ヲ達スルモノトス

一、毎月一回集会シテ互ニ報徳ノ主義及方法ヲ研究シ其他道徳經濟ニ關スル事項ヲ講究ス

二、時宜ニ依リ中央又ハ地方ニ講話会ヲ開キ又ハ雑誌会報等ヲ発刊シテ斯道ノ普及ヲ計ルコト

三、報徳社ニ關スル実況ヲ調査シ其發達ヲ期スルコト

四、二宮尊徳先生ノ遺物ヲ蒐集シ又其事績ヲ調査シテ之ヲ編纂スルコト

五、報徳ニ關スル図書ヲ蒐集シ若クハ編纂スルコト

第五條 本会ニ評議員若干名書記若干名ヲ置ク

評議員ノ互選ヲ以テ専務理事ヲ定ム

第六條 會員ハ毎月左ノ區別ニ依リ会費ヲ納付スルモノトス

中央會員 金貳拾五錢

地方會員 金 五 錢

(注意)

入会希望者ハ宿所姓名ヲ記シ東京市小石川区原町百二十五番地報徳会評議員岡田良平宛ニ申込マルベシ」

### 2. 「本会及『斯民』並『斯民家庭』の本領と希望」

(斯民 5. 2 / M43. 4<sup>3)</sup>)

「報徳会は誠実勤勞の民風、協同推譲の精神を作興し、道徳、經濟、自治、教育の各方面に亘りて、互に之が連絡一致を図り、之が改良發展を期す。之が為講演の公開、良書の刊行、善事の奨励、地方の調査、時々講習等に依て、本会の目的を達せんとし、殊に毎月一回雑誌『斯民』を発行して、聊か民風作興の一端に資す。又近くは『斯民家庭』を発行して家庭訓育の資料に供す

一、本会及『斯民』は、精神訓育を奨めて、古今内外の善行偉績を紹介し、以て国民風氣

の作興を図る。

- 二、本会及『斯民』は、自治、民政、教育、風化の発展を期して之に関する事業を奨励す。
- 三、本会及『斯民』は、経済の発展及利源の開拓に参考となるべき事項を調査して、之を報道す。
- 四、本会及『斯民』は、家庭の訓育、少年の教訓に資すべき、平易にして且趣味ある材料を紹介す。
- 五、本会及『斯民』は、中央地方の諸人士、及各地方自治団体、青年団体、共同組合、其他各種団体の為めに、参考となるべき、諸般の資料を供給す。
- 六、本会及『斯民』は、地方長官を始め、当局者の意見、実験並に地方の事蹟を紹介し、篤志者善行者の美談、地方自治、並に教育実業の局に当れる諸人の報告並びに資料を紹介す。」

### 3. 「本会の主旨要綱」

(斯民6. 9 / M44. 12)

「本会は地方の開発、自治の興新、道德経済の調和、教育産業の連絡を図り、之が為めには内外の研究、地方の調査、講演の公開、良書の刊行、篤行の奨励等をなし、殊に毎月一回『斯民』及『斯民家庭』なる二雑誌を発行す。

- 一、教育勅語、戊申詔書を始め、優渥なる聖旨を奉戴して、精神教育を奨む。
- 二、誠実勤労の風を興し、実力品性の兼備を期し、殊に公益の為め、推譲の精神を鼓吹す。
- 三、都市農村の興新を期し、中央諸名家、地方当局者の意見、並に地方実際の事績を紹介す。
- 四、産業の発達、利源の開拓に参考となるべき事項を報道す。
- 五、家庭の訓育、児童の教訓に資すべき、平易にして趣味ある材料を紹介す。
- 六、自治団体、青年団体、各種学校は勿論、各地の斯民会、報徳会、自治研究会、地方改良会、婦人会、農会、教育会等、普く地方の改良開発に助力せる団体、並に有志との気脈を通じ、之を援助するに力む。」

### 4. 「地方斯民会設置標準」

(斯民3. 5 / M41. 7 / 77)

「 目 的

- 一、本会ハ教育勅語ノ御趣旨ヲ遵奉シテ精神訓育ヲ奨メ広ク道德ト経済トノ調和及教育産業ノ発達地方自治ノ作興ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 一、本会員ハ左ノ個條ヲ以テ規範ト為スヘシ

- 一、忠君愛国義勇奉公ノ思想ヲ涵養スルコト
- 二、至誠ヲ以テ本トナシ勤勞ヲ以テ主トナシ能ク分度ヲ守リ以テ推譲ヲ為スコト
- 三、協同一致ヲ以テ公私ノ事ニ当リ立德致富ノ実ヲ挙げ克ク相互ニ救済ヲ為スコト
- 四、納税其他公ノ義務ヲ重スヘキコト

### 事業

- 一、進取勤勉ノ精神ヲ以テ殖産ノ基ヲ立ツルコト
- 二、共同貯蓄ヲ奨励シ致富ノ途ヲ講スルコト
- 三、善行良風ヲ勸励シ且ツ業務ニ精励スル者又ハ善行者ヲ旌表スルコト
- 四、公益慈善ノ事業ヲ援助スルコト
- 五、図書館ヲ設置シ講話会ヲ設クル等社会教育ノ作興ヲ図ルコト
- 六、道德經濟ノ要義自治教育ニ関スル事項ヲ講演若ハ研究スルコト
- 七、会員中非常ノ災害ニ罹リタルモノヲ救済スルコト
- 八、先徳耆老ヲ尊ミ各方面ニ於テ地方ノ為メニ尽力シ又ハ模範トナルヘキ人ヲ優遇スルノ途ヲ講スルコト
- 九、前各号ノ外本会ノ目的ヲ達スル為メ必要ト認ムル事項ヲ調査シ又ハ之カ実行ヲ図ルコト

### 設置区域

- 一、設置ハ県、郡又ハ町村自治区ト同一ナラシムルコト

### 資金

- 一、会員ハ会費トシテ毎月若干ノ金額ヲ納ムルコト
- 一、資金ハ本会ノ目的ヲ遂行スル為メ必要ナル経費ニ支出スルコト

### 集会

- 一、会員ハ毎月一回集会スルコト
- 一、毎年一回通常總會ヲ開クコト
- 一、臨時必要ノ場合ニ臨時会ヲ開クコト<sup>(4)</sup>

## 5. 「地方斯民会又ハ報徳会標準規定ノ要綱」

((該要綱ハ府県都市町村斯民会又ハ報徳会ニ適用セラルベキコト))

(斯民3. 14/M42. 3)

- 「一、本会ハ教育勅語戊申詔書ノ御趣旨ヲ遵奉シテ精神訓育ヲ奨メ広ク道德經濟ノ調和、地方自治ノ作興、教育産業ノ発達其他一般地方ノ改良ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 一、本会員ハ宗教ノ如何ヲ問ハス職業ノ異同ニ論ナクニ地方改良ノ精神ヲ以テ共同助力シ、本会ノ目的ヲ達スルコトヲ期スヘシ

- 一、本会員ハ左ノ個條ヲ以テ規範ト為スヘシ
  - 一、忠君愛國ノ思想ヲ涵養シ公共心ノ作興ヲ図ル事
  - 二、誠実ヲ以テ本ト為シ勤勉事ニ当リテ能ク分度ヲ守リ公益ノ為メニ尽力スルコト
  - 三、協同一致ヲ以テ公私ノ事ニ当リ立德致富ノ実ヲ挙ケテ相互ニ克ク助成救済ヲ為スコト
  - 四、自治ノ改良、民風ノ改善ニ尽力スルコト
  - 五、進取勤勉ノ精神ヲ以テ殖産興業ノ基ヲ立ツル事
- 一、本会ニ於テ遂行スヘキ事業ノ概目左ノ如シ
  - 一、地方公共団体ノ聯絡ヲ取り団体ノ事業ヲ幫助シ庶般地方改良ノ方法ヲ講スルコト
  - 二、善行良風ヲ勸奨シテ公共ノ事ニ尽力スル者一意専心其業務ニ精励スル者其他善行者篤志者ノ類ヲ旌表スルコト
  - 三、公益慈善ノ事業ヲ援助スルコト
  - 四、講話会ニ依リテ社会教育ノ作興ヲ図ルコト
  - 五、道德、經濟、自治、民政、教育、産業ニ関スル事項ヲ研究シ若ハ之ニ関シテ実行ヲ期スルコト
  - 六、前項ノ研究実行ヲ以テ目的トセル中央ノ報徳会其他此種ノ団体ハ互ヒニ連絡ヲ取りテ地方ノ状況ヲ時々其雑誌『斯民』ニ報道シ又ハ同会ノ講師ヲ招致シテ講演会ヲ開クコト
  - 七、会員中非常ノ災害ニ罹リタル者ヲ救済スルコト
  - 八、先徳耆老ヲ尊ミ各方面ニ於テ地方ノ為ニ尽力シ又ハ模範トナルヘキ人ヲ優遇スルノ途ヲ講スル事
  - 九、内外古今ノ模範トナルベキ人物ノ事績ヲ調査シ紹介スルコト
  - 十、家庭及少年ノ参考トナルベキ趣味アル事項ヲ紹介スルコト
  - 十一、前各項ノ外本会ノ目的ヲ達スルガ為メニ必要ト認ムルノ事項ヲ調査シ又ハ之カ実行ヲ図ルコト

## 6. 「本会家庭部設置並『斯民家庭』発刊稟告」

(斯民 4. 11/M42. 12)

「……家庭の訓育、婦人の風化に資すべき、平易にして趣味ある、適當の読物を刊行するの必要を認め、茲に新に家庭部を設置して、雑誌『斯民家庭』を創刊することとし、今後漸次に改良を加へて家庭の最も適當なる読物ならしめんことを期す。」

## II. 「(中央) 報徳会」の組織と人

### 1. 事務所

明治期を通して、事務所は「東京市神田区一ツ橋通町21番地」に置かれた。

### 2. 地方斯民会・地方報徳会

地方斯民会・地方報徳会等の設立・発会等の状況は、表1参照。

### 3. 報徳会「家庭部」

I-2・3・6, II-6-(2)参照。

### 4. 青年団

「(中央) 報徳会」は、〈斯民4. 9/M42. 10〉より「青年団」の欄を設けた。また、〈斯民5. 2/M43. 4〉を「臨時発刊 青年号」とした。また、後述の評議員は、各地の青年組織の会で講演した(表8参照)。これより、「(中央) 報徳会」は、青年団・青年への報徳の浸透を図っていたと思われる。

### 5. 評議員等, 東京報徳会員, 名誉賛襄員

#### (1) 評議員等

評議員等に関しては、いつどこでどのように決められていったのか明確でないが、次のように推測できる。

まず、〔註〕2)で述べたように、「二宮尊徳翁五十年記念会」開催(明治38年11月26日)、『二宮尊徳翁五十年記念帖』出版(同39年3月5日)の頃に作られたと考えられる「報徳会則大綱」(I-1参照)の中に、「第五條 本会ニ評議員若干名書記若干名ヲ置ク／評議員ノ互選ヲ以テ専務理事ヲ定ム」とある。したがって、この頃に若干名の評議員が決められたと思われる。

次に、〈斯民1. 3/M39. 6〉の「彙報」に始めて掲載された「(中央) 報徳会」の「例会」(第12回, 明治39年6月5日。III-1-(1)参照)の記事において、「来会評議員」という言葉が出てくる。ここでは、岡田(良平?)が評議員と明記されており、かつ45(名?)の評議員がいたことが記されている。これにより、第12回「例会」以前に45名以上の評議員が決められていたと思われる。

評議員と「例会」との関係は強いと思われる(表3参照)ので、ここで「例会」に着目し、上記第12回「例会」の第12回という数について考えてみよう。まず、相田良雄の記述<sup>4)</sup>による

と、明治38年7月24日に「報徳研究会」が行われた（於 神田一ツ橋通「学士会事務所」。出席者は、岡田良平、早川千吉郎、一木喜徳郎、井上友一、留岡幸助、鈴木藤三郎、田村武治、相田良雄、清野長太郎？、桑田熊蔵？）ことが記されている。ここで、「二宮尊徳翁五十年記念会」（同38年11月26日、於「東京音楽学校」；発起人は、平田東助、岡田良平、早川千吉郎、一木喜徳郎、久米金弥、桑田熊蔵、鈴木藤三郎、田村武治、井上友一、清野長太郎、留岡幸助。〔註〕2参照）の開催が決定されたとも記されている。同38年7月24日の「報徳研究会」を第1回として<sup>5)</sup>その後毎月1回のペースで「報徳研究会」が行われたとすると、ちょうど同39年6月が第12回の「報徳研究会」（「報徳会則大綱」の言葉で「毎月一回」の「集会」か？。「『斯民』」の言葉で「例会」か？）の月となり、回数のうえで〈斯民1. 3/M39. 6〉の「彙報」の「例会」の記事にある第12回「例会」（同39年6月5日）の第12回と一致する。

44名の「本会評議員及『斯民』担任者」が、『斯民』に一覧として始めて掲載された（表2参照）のは、〈斯民2. 1/M40. 4〉においてである。この44名という数字は、前述の明治39年6月5日の45（名？）に近い。

その後、評議員が加えられ、家庭部評議員もできて、評議員の全体数は増加した。〈斯民4. 11/M42. 12〉には、「本会評議員及家庭部評議員」（79名）が掲載された。さらに、評議員は加えられ、〈斯民6. 4/M44. 7〉に「本会評議員」（85名）が掲載された。

なお、『斯民』に掲載された頃の評議員の決められ方であるが、評議員は、『斯民』に一覧として掲載される直前に例外なく一斉に決定されたとは考えられにくい。例えば、松村茂助・新渡戸稲造については、〈斯民4. 11/M42. 12〉の「本会評議員及家庭部評議員」に始めて名前が挙がるよりも前に、既に評議員になっている（斯民3. 4/M41. 6/87）。新渡戸については、明治41年5月24日現在で評議員とされている（斯民3. 4/M41. 6/87）。農学博士酒匂常明（同42年7月死亡）については、表2に名前が挙がっていないが、明治42年8月現在で前評議員とされている（斯民4. 7/M42. 8/90）。下岡忠治については、〈斯民4. 11/M42. 12〉の「本会評議員及家庭部評議員」に始めて名前が挙がるよりも前に、既に明治42年8月11日現在で評議員とされている（斯民4. 8/M42. 9/79）。したがって、様々なつながりの中で、漸次決定された評議員もいたと思われる。

## (2)「東京報徳会評議員」・「東京報徳会員」

『斯民』の中に、「東京報徳会」・「東京報徳会評議員」・「東京報徳会員」という名称がしばしば出てくる。

例えば、後述Ⅲ-6の「栢山詣で」（明治39年10月13日～同月14日）出席者を「東京報徳会員」と呼称している。本稿で氏名を挙げた20名のうち11名は、翌年の同40年4月現在「評議員及『斯民』担任者」（表2参照）とされる人々であった。

また、〈斯民1. 7/M39. 10/81〉に、「東京報徳会協議会」と題して、明治39年の盛夏

2 か月に「(中央) 報徳会」の「例会」を開かなかったもので、同年9月28日に岡田(良平?), 澤柳(政太郎?), 久米(金弥?), 桑田(熊蔵?), 清水(澄?), 井上(友一?), 中川(望?), 留岡(幸助?), 白石(正邦?) の各評議員と、床次地方局長, 白仁普通学務局長, 国府種徳等とで「幹部の協議会を開」いた旨が書かれている。さらに、『斯民』には以下の記述がある。

①「新潟県斯民会」を「東京報徳会」と連絡して発起した旨(斯民2. 12/M41. 3/72)。  
 ②「東京報徳会評議員留岡幸助氏」(斯民3. 1/M41. 4/84)。  
 ③「東京報徳会評議員留岡幸助・国府種徳が, 「小田原報徳社」主催「小田原報徳講演会」で講演した旨(斯民3. 4/M41. 6/83)。  
 ④新潟県「斯民会」に「東京報徳会」から同会講師長澤則彦氏が派遣された旨(斯民4. 5/M42. 6/85)。  
 ⑤「新潟県斯民会」を「東京報徳会員」と(『斯民』?) 購読者をとをもって組織した旨(斯民7. 4/M45. 6/94)。

管見によれば, 「東京報徳会」という名称で明確な組織体系を記した記述は見当たらない。しかし, 「東京報徳会評議員」・「東京報徳会員」と呼称した人々と, 上記の表現で「幹部」と言われる「(中央) 報徳会」の重要な人々, 評議員, 『斯民』執筆担当者, 「例会」来会者, 等はだぶる部分も多い。したがって, 「東京報徳会」とは, 「報徳会則大綱」により「東京市ニ設」(第三條) けられた「(中央) 報徳会」そのもので, 「東京報徳会員」とは, 「報徳会則大綱」の「評議員若干名書記若干名」・「専務理事」(第五條) 等を指した通称と考えるのが自然であるように思われる(なお, 書記・専務理事の具体的氏名は不明)。ここで等としたのは, 「報徳会則大綱」には表れていない役職の人々に対しても, 『斯民』では「東京報徳会評議員」又は「東京報徳会員」と呼称しているからである。例えば, 明治期を通して『斯民』の編輯兼発行人であった坪井忍を「東京報徳会員」としている。

### (3) 名誉賛襄員

「(中央) 報徳会」は, 名誉賛襄員を設けて組織を固めた。多数の名誉賛襄員の氏名が, 『斯民』に一覧として始めて掲載されたのは, <斯民6. 5/M44. 8> においてである。この明治44年8月現在における名誉賛襄員は, 侯爵徳川頼倫, 侯爵前田利為, 伯爵徳川達孝, 男爵三井八郎右衛門, 住友吉左衛門, 内務省土木局長・法学博士水野鍊太郎, 東京府知事阿部浩・京都府知事大森鐘一・静岡県知事法学博士松井茂・岩手県知事笠井信一はじめ各府県知事, 「東洋拓殖会社」理事林市蔵, 各府県事務官, 等合計123名である。

侯爵前田利為と「(中央) 報徳会」との関係に関しては, 明治41年1月19日に前田邸で開催された「松雲公前田綱紀卿の民政及文教に関する事蹟の談話会」に多数評議員が出席するという関係が認められる。また, 「(中央) 報徳会」設立には, 三井・岩崎・住友・安田等からも資金援助があった<sup>6)</sup>ので, これらの関係者が名誉賛襄員に入ったと思われる。また, 松井茂は明治44年5月から静岡県知事であり, 笠井信一は静岡県生まれで松井の次(大正2年3月〜)の静岡県知事であり, いずれも静岡県下報徳社と関わった人物である。笠井は, 大正時



代になるが、岡山県知事時代（同3年6月～）に済世顧問制度（方面委員制度の源流）を創立しており、彼の著書『済世顧問制度の精神』（同5年）には、思想的特色として報徳的地方改良思想が確認できる。

## 6. 一般会員、「家庭部」会員

### (1) 一般会員

「(中央) 報徳会」は、一般の人々へ入会を勧めている。〈斯民1. 5/M39. 8〉の「会告 入会の手続及其他」によると、会員希望者は、書面又は口頭で「(中央) 報徳会」事務所に申し込みれば会員になれた。「特別会員」は、毎月25銭を納める者、「通常会員」は、毎月10銭を納める者である。会員には、「本会に於て開催する講話会に出席することを得。」「本会に於て発行する図書は、……特に割引を為す。」「本会に於て発行する『斯民』を無代価にて配付す。」の特典があった。明治39年8月の後も、時に多少文面が変わったが一般の人々へ入会を勧めている。

### (2) 「家庭部」会員

「(中央) 報徳会」は、明治42年頃より「家庭部」会員を募集した。〈斯民4. 11/M42. 12〉の「本会家庭部設置並『斯民家庭』発刊稟告」によると、会員希望者は、住所・氏名・会員の種類を明記し会費を添えて「(中央) 報徳会」事務所へ送付すれば「家庭部」会員になれた。「特別会員」は、毎月30銭を納める者、「通常会員」は、毎月15銭を納める者である。会員に対しては、「本会に於て開催する講話会に出席することを得。」「本会に於て発行する図書は、……特に割引を為す。」の特典があった。

## III. 「(中央) 報徳会」の活動

### 1. 数々の会議の開催

#### (1) 「例会」の開催

「(中央) 報徳会」は、「報徳会則大綱」の第四條「一、毎月一回集会シテ互ニ報徳ノ主義及方法ヲ研究シ其他道德経済ニ関スル事項ヲ講究ス」に則ったと思われ、毎月開催できたわけではないようであるが、「例会」をしばしば開催した（表3参照）。II-5-(1)で前述したように、明治39年6月5日が第12回「例会」である。その後は、次第に『斯民』に第何回かが明記されなくなる。また、「例会」のことと思われるが、「月次会」・「評議員会」・「例月講演会」という呼称も見られるようになる。また、同40年7月8日以降は、「例会」に「講演会」が加わった呼称（「講演会例会」・「例会講演会」・「報徳講演会例会」・「報徳会講演会例会」）になっている。また、同42年5月12日以降は、「例会」は他の会との聯合の形で開催されても

いる。

## (2) 「行政研究会」の開催

「(中央)報徳会」は、明治41年からと思われるが「行政研究会」を開催した。明治41年5月7日が第2回とある(斯民3.4/M41.6)。「行政研究会」は、「例会」や他の会との聯合の形で開催されてもいる。

「行政研究会」の内容の詳細は、『斯民』によっても必ずしも明らかにならない。

## (3) 「例月研究会」の開催

「(中央)報徳会」は、明治44年10月から「例月研究会」を始めた。『斯民』から「例会」の記事がなくなった後のことである。「例月研究会」の第1回のテーマは、「泰西農事の比較」であった。第2回は、同年11月24日に行われ、テーマは「地方金融問題」であった。〈斯民6.9/M44.12/82〉の「本会例月研究会」の欄に、「本会は、帝国発展の為に、現代最近の進歩を絶えず研究するの要を認め、毎月例会を開きて、内外に亘りて重要な諸問題に就き、専門家の研究を発表し、且つ会員各自の意見交換をもなす事とし」(振り仮名は省略)とある。この文章は、〈斯民6.8/M44.11〉の「天長節号」から『斯民』に何度か載せられている「本会(「(中央)報徳会」——引用者注)の新計画」の欄の冒頭の文章とほぼ同じである。したがって、「例月研究会」は、前述「例会」の延長或いは単なる名称変更と考えるよりも、明治44年の天長節あたりを機に、専門家の研究を主体として新たに始められたと考える方が妥当である。

各回の「例月研究会」の内容は、必ずしも明らかにならないが、「本会の新計画」のような計画を立てたり、実行したりしたと思われる。例えば、〈斯民6.8/M44.11〉に掲載された「本会の新計画」は、以下のようになっている。

「帝国発展の為に、現代最近の進歩を絶えず研究するの要あり。因て本会は、爾後毎月例会を開き、内外に亘りて重要な諸問題に就き、専門家の研究を発表し、且つ其会員各自の意見交換をもなすこととし、先づ差当り左の諸問題より著手することとし。以後は順次其他の事項にも推し及ぼさんことを期す。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 一、泰西農事の比較                 | 一、輸出品奨励の問題        |
| 一、地方金融問題                  | 一、共済組合発展の方法       |
| 一、漁村改良問題                  | 一、実業補習教育普及問題      |
| 一、公民教育の方法                 | 一、自治と教育との連絡       |
| 一、地方財源の研究                 | 一、都市改良の諸問題        |
| 一、公営収益事業の研究               | 一、市場公営の研究         |
| 一、農科 <sup>(家)</sup> 経済の研究 | 一、工場の救済施設并に小農保護事業 |
| 一、農業と工女問題                 | 一、拓地移民の問題         |

### 一、娯楽改良の研究」

## 2. 「(中央)報徳会」主催・共催の講演会・懇話会等の開催

「(中央)報徳会」は、「報徳会則大綱」の第四條「二、時宜ニ依り中央又ハ地方ニ講話会ヲ開キ又ハ雑誌会報等ヲ発刊シテ斯道ノ普及ヲ計ルコト」に則ったと思われ、主催・共催して講演会・懇話会等を開催した(表4参照)。

「(中央)報徳会」主催・共催の大きな講演会としては、明治40年8月3日～同月4日の小田原「報徳会夏期講演会」(於「小田原中学校」他)、同41年8月1日～同月3日の「報徳会第2回夏期講演会」(於「明石女子師範学校」)、同42年7月16日～同月18日の「報徳会第3回夏期講演会」(於大分町「大分県会議事堂」)等の夏期の講演会がある。また、明治40年12月8日からは、「報徳婦人会」を開催している。

## 3. 機関誌『斯民』の発行

「(中央)報徳会」は、「報徳会則大綱」の第四條「二、時宜ニ依り中央又ハ地方ニ講話会ヲ開キ又ハ雑誌会報等ヲ発刊シテ斯道ノ普及ヲ計ルコト」に則ったと思われ、明治39年4月に機関誌『斯民』を創刊し、以後ほぼ月1度これを発行して報徳会員等への情報提供、啓発を行った。

『斯民』の正確な発行部数は不明である。しかし、相田良雄の述懐によると、「第一号は一万部刷つて、次から三千部発行した。六千部発行となつたのは余り年月を要しなかつた。」<sup>7)</sup>とある。また、国府種徳の回顧によると、「五十号位に達するころに「一万二三千に達する」<sup>8)</sup>とある。

### (1)機関誌『斯民』の項目別記事数等

表5は、〈斯民1. 1/M39. 4〉から〈斯民7. 5/M45. 7〉までの『斯民』の項目別記事数等を示したものである。初年度の明治39年度には、多くの項目を設けているが、後に少ない項目になっていく。全年度を通して設けられた項目はない。「家庭」は明治39年度から同42年度まで、「青年団」は同42年度から、「地方改良」は同42年度から同44年度までの掲載である。

全年度の合計では、「論説(講演)」+「講話」+「説苑」(385)、「教育」+「産業」(279)、「青年団」(221)、「自治(、民政)」(193)の数が多くなっている。全項目の合計では、明治44年度(367)、明治42年度(288)、明治43年度(274)等の数が多くなっている。

全記事数(1728)に対する上段の数(〔備考〕(2)参照)の合計(187)が占める割合は、10.8%と1割程である。したがって、『斯民』の記事は必ずしも報徳そのものだけに関わっていたとは言いがたい。また、上段の数は、明治40年度をピークにして、大正時代に近づくにつれて減少する傾向がある。

## (2)機関誌『斯民家庭』の内容

明治43年1月発刊の『斯民家庭』第1編第1号の内容は、「口絵及挿絵」、「道しるべ」（「婦人及家庭に関する其折々の指針及本会の趣意に基ける諸家の所見。」）、「教へ艸」（「婦人訓、家政訓、修養談、児童教育の心得、家庭の心得、婦人の躰方等、総べて心得方に関する諸家の所話所見。」）、「婦女の鑑」、「家庭の菜」（「一般主婦の心得、内外国模範家庭の実例、家事経済、家庭衛生、育児、家庭婦女の養育方並に躰方及容儀法、……、家庭の料理割烹、……、総べて直接家庭に必要な事項。」）、「学びの庭」、「技芸の園」、「家庭科学」、「千種の花」、「文芸の苑」、「花もみぢ」、「花籠」、「家庭の顧問」、「職業の手引」、「会員の友」、「彙報」となっている（斯民4. 11/M42. 12）。

## 4. 報徳社に関する調査の実施

「（中央）報徳会」評議員等は、「報徳会則大綱」の第四條「三、報徳社ニ関スル実況ヲ調査シ其発達ヲ期スルコト」に則ったと思われ、各地の報徳社を調査した。表6は、『斯民』における静岡県下報徳社に関する主な記事を示したもので、ここからも調査の一端が伺える。

## 5. 二宮金次郎・尊徳像の製作・販売

「（中央）報徳会」は、「報徳会則大綱」の第四條「四、二宮尊徳先生ノ遺物ヲ蒐集シ又其事績ヲ調査シテ之ヲ編纂スルコト」に則ったと思われ、以下の二宮尊徳像の製作・販売をしている。

### (1)長愛之製作の二宮尊徳像

「（中央）報徳会」は、「遠江国報徳社」社長岡田良一郎の指導、「東京美術学校」正木校長の命、「東京美術学校」教授高村光雲・石川光明・竹内久一の監督で、「東京美術学校」助手長愛之が製作した二宮尊徳翁の塑像を模造し、販売した（斯民5. 3/M43. 5）。

### (2)岡崎雪聲作の二宮金次郎像

「（中央）報徳会」は、岡崎雪聲作「二宮尊徳翁幼時ノ銅像」（予約35円、正価45円）を販売した（斯民5. 6/M43. 8）。これは、岡崎雪聲作「銅像二宮金次郎」のことと思われるが、この岡崎雪聲作「銅像二宮金次郎」は、明治43年9月に東京彫工会に出品され、明治天皇がこれに関心を寄せ後に購入したというものである（現在、「明治神宮宝物殿」所蔵）。

## 6. 「栢山詣で」（明治39年10月13日～同月14日）

「（中央）報徳会」は、「報徳会則大綱」の第四條「四、二宮尊徳先生ノ遺物ヲ蒐集シ又其事績ヲ調査シテ之ヲ編纂スルコト」に則ったと思われ、明治39年10月13日～同月14日に尊徳の生誕地を訪れる「栢山詣で」を行った。出席者は、金原明善、岡田良平、一木喜徳郎、床

次竹二郎, 白仁武, 鈴木藤三郎, 古橋源六郎, 井上友一, 清水澄, 堀信次, 有馬四郎助, 中川望, 奥山萬次郎, 五十嵐鑛三郎, 大橋重省, 国府種徳, 平福百穂, 坪井忍, 中島彦兵衛, 留岡幸助, 等である(国府犀東「栢山詣での記」, 斯民 1. 7/M39. 10/51~79; 「東京報徳会員と栢山観光」, 同上 P.80)。

## 7. 図書等の蒐集, 図書等の編纂または発行

「(中央)報徳会」は, 「報徳会則大綱」の第四條「五, 報徳ニ関スル図書ヲ蒐集シ若クハ編纂スルコト」に則ったと思われ, 図書等を蒐集(寄贈も多数あり)し, 図書等を編纂または発行した。また, それらを『斯民』に広告の形で多数掲載した。表7は, 「(中央)報徳会」編纂または発行の図書等である。

## 8. 「(中央)報徳会」と地方斯民会・地方報徳会以外での評議員等の諸活動

### (1)第二次桂内閣(明治41年7月14日~同44年8月25日)における評議員等の活動

〔内務省〕内務大臣平田東助, 内務次官一木喜徳郎, 地方局長床次竹二郎, 府県課長井上友一, 市町村課長中川望, 〔文部省〕文部大臣小松原英太郎, 文部次官岡田良平, 〔農商務省〕農商務次官押川則吉のように, 第二次桂内閣には「(中央)報徳会」評議員または「(中央)報徳会」と強いつながりのある人物が多かった。「報徳内務省」と言われたのもこの頃と思われる。

### (2)内務省囑託としての評議員の活動

明治期における内務省囑託には, 同時に「(中央)報徳会」評議員となっている者が複数いた。明治期において内務省囑託になった者の中で, その在任期間中に「(中央)報徳会」評議員であった者を示す(( )内は, 内務省囑託の在任期間)と, 留岡幸助(明治33年~大正3年), 国府種徳(明治40年~同44年), 小河滋次郎(明治44年~大正7年)となる。彼らは, 大なり小なり内務省と「(中央)報徳会」とのパイプ役となっていた。

### (3)「中央慈善協会」における評議員の活動

明治41年10月7日に, 「中央慈善協会」が設立されたが, その時の役員の中には「(中央)報徳会」評議員が多かった。「中央慈善協会」役員<sup>9)</sup>の内「(中央)報徳会」評議員及『斯民』担任者(明治40年4月現在)であった者は, 幹事長久米金弥, 幹事井上友一, 同留岡幸助, 同中川望, 同桑田熊蔵, 同清野長太郎, 評議員一木喜徳郎, 同早川千吉郎, 同床次竹二郎, 同手島精一, 同小河滋次郎, 同岡実, 同岡田良平, 同清水澄, 同白仁武, である。

### (4)「通俗教育調査委員会」における評議員の活動

明治44年5月17日に, 「通俗教育調査委員会」委員が任命されるが, その中には「(中央)報徳会」評議員が多かった。「通俗教育調査委員会」委員の内「(中央)報徳会」評議員(同

年7月現在)であった者は、委員長岡田良平、幹事田所美治、委員手島精一、同新渡戸稲造、同井上友一、同横井時敬、同湯原元一、同桑田熊蔵、である(斯民6.3/M44.6/78~79)。「通俗教育調査委員会」の影響もあり、「(中央)報徳会」発行の図書等が文部省認定となった(斯民6.10/M45.1/80)。

**(5)評議員による各地の講演会・講習会等での講演等**

「(中央)報徳会」評議員は、「(中央)報徳会」主催以外と思われる各地の講演会・講習会等で盛んに講演等を行った。表8は、そのうちの一部である。これにより、報徳は全国へ普及していったと思われる。

表1. 地方斯民会・地方報徳会等の設立・発会等の状況

年.月.日	状 況	典 拠
M34?	「東亞報徳会」設立(於 鹿児島県)	『斯民』第1編第12号, M40.3
39?	「北海道斯民会」設立(本部は北海道庁内, 支部は各支庁・区役所内)	『斯民』第1編第7号, M39.10
39.10.17	「鹿児島市報徳会」秋季例会開催	『斯民』第2編第1号, M40.4
39.12現在	「報徳館」設立予定(於 石川県能美郡小松町)	『斯民』第1編第9号, M39.12
39?	新潟県「佐渡斯民会」設立	『斯民』第3編第13号, M42.2
40.7.-	「広島斯民会」設立	『斯民』第2編第11号, M41.2
40.10.17	「鹿児島市報徳会」秋季例会開催	『斯民』第2編第9号, M40.12
41.1.11	「広島斯民会」(再?)設立	『斯民』第2編第11号, M41.2
41.2.18	「広島県斯民会」開催	『斯民』第3編第1号, M41.4
41.2.18	広島県「斯民講演会」開催(於 福山, 三原, 西條, 広島, 吉田, 等)	『斯民』第3編第1号, M41.4
41.2.27 ～2.30	島根県「斯民講演会」開催	『斯民』第3編第1号, M41.4
41.2?	「仙台報徳会」設立	『斯民』第2編第12号, M41.3
41.4.11	「広島斯民会」, 4月例会開催	『斯民』第3編第6号, M41.8
41.4.13	広島県「豊田郡報徳会」設立	『斯民』第3編第2号, M41.5
41.5.23	「広島斯民会」, 例会開催	『斯民』第3編第7号, M41.9
41.6.11	「広島斯民会」, 7月例会開催	『斯民』第3編第4号, M41.6
41.6.15	広島県「賀茂郡斯民会」開催	『斯民』第3編第6号, M41.8
42.6.17 ～6.18	「新潟県斯民会」・地主協会・産業組合支会, 「第1回総会」開催	『斯民』第3編第6号, M41.8
41.6.18	「新潟県斯民会」設立(事務所は「新潟市積善組合事務所」内)。(『斯民』第2編第12号, M41.3では, 発会式予定はM41.3～4) (『斯民』第5編第8号, M43.10では, 発会はM41.7.15) (『斯民』第7編第4号, M45.6では, 創立はM40.12)	『斯民』第7編第4号, M45.6
41.6.-	福井県「坂井郡斯民会」組織	『斯民』第3編第9号, M40.12
41.7.7	「(中央)報徳会」, 「地方斯民会設置標準」を『斯民』に掲載	『斯民』第3編第5号, M41.7
41.7.15	「新潟県斯民会東頸城郡支部」発会	『斯民』第3編第6号, M41.8
41.8.20	「新潟県斯民会北蒲原郡支部」発会	『斯民』第3編第7号, M41.9
41.8.20	「新潟県斯民会北蒲原郡支部」の援助による「新潟県北蒲原郡青年会」発会の決議	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.8.23	「山城報徳会」発会	『斯民』第3編第7号, M41.9
41.9.2	「新潟県斯民会南蒲原郡支部」発会	『斯民』第3編第7号, M41.9
41.9.5	広島県「賀茂郡斯民会」開催	『斯民』第3編第8号, M41.10
41.9.8	京都府紀伊郡「吉祥院村報徳会」発会	『斯民』第3編第8号, M41.10
41.9.23	「新潟県刈羽郡斯民会支部」発会	『斯民』第3編第10号, M41.11
41.10.2	「新潟県北魚沼郡斯民会支部」発会	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.10.10	広島県「神石郡斯民会」発会	『斯民』第3編第10号, M41.11
41.10.14	大分県「四日市町報徳会」発会 10.14～10.16に「報徳大講演会」開催。前田正名, 留岡幸助, 森恒太郎等, 講演	『斯民』第3編第8号, M41.10
41.10.18	広島県「沼隈郡斯民会」発会	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.10.23	「新潟県南魚沼郡斯民会支部」発会, 講演会開催	『斯民』第3編第13号, M42.2
41.10.25	「新潟市斯民会」, 講演会開催	『斯民』第3編第13号, M42.2
41.11.2	新潟県「西頸城郡斯民会」, 講演会開催	『斯民』第3編第13号, M42.2
41.11.10	和歌山県「西牟婁郡斯民会」組織	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.11.10	岐阜県恵那郡「戊申報徳会」設立	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.11.13	岐阜県羽島郡, 各町村に報徳会を設立することを可決	『斯民』第3編第13号, M42.2
41.11.15	新潟県「見附町斯民会」, 講演会開催	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.11.15	広島県「深安郡斯民会」発会	『斯民』第4編第10号, M42.11
41.11.23	広島県沼隈郡鞆町「斯民会」発会	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.12～	岐阜県羽島郡下の多数町村, 報徳会発会	『斯民』第3編第13号, M42.2
41.12.2	広島県「甲奴郡斯民会」・「甲奴郡青年会」発会	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.12.6	「新潟県斯民会西頸城郡支部鬼伏部会」発会	『斯民』第3編第12号, M42.1
41.12.13	「仙台報徳会」, 報徳講演会開催	『斯民』第3編第12号, M42.1
42?	大分県南海部郡「南部報徳会」設立	『斯民』第3編第13号, M42.2
42.1.7	埼玉県比企郡小川町, 報徳会設立	『斯民』第3編第13号, M42.2
42.2.10	「新潟県斯民会寺泊町部会」発会	『斯民』第3編第14号, M42.3
42.2.11	「佐賀県報徳会」発会	『斯民』第4編第1号, M42.4

年.月.日	状 況	典 拠
42. 2. 14	京都府河東村, 講演会開催	『斯民』第4編第2号, M42. 4
42. 2. 21	茨城県「筑波郡斯民会」発会	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 23	「新潟市斯民会」, 「第4回斯民会」開催	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42. 2 頃?	「島根県報徳会」設立	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42. 3. 7	「(中央)報徳会」, 「地方斯民会又ハ報徳会標準規定ノ要綱」を『斯民』に掲載	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 3. 24	長野県「上伊那郡斯民会」発会	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42. 4. 3	「鹿児島市報徳会」, 「春季総会」開催	『斯民』第4編第3号, M42. 5
42. 4. 11	「新潟県斯民会」, この日から新潟県各町村にて幻燈講演会開催	『斯民』第4編第5号, M42. 6
42. 4. 11	「中蒲原郡斯民会支部」発会	『斯民』第4編第2号, M42. 4
42. 4. 18	千葉県「五井町報徳会」・「新興会」, 「聯合講演会」開催	『斯民』第4編第5号, M42. 6
42. 4. 25	新潟県「岩船郡斯民会支部」発会	『斯民』第4編第5号, M42. 6
42. 5. 24	徳島県「名西郡斯民会」発会。評議員留岡幸助, 「報徳と農業」を講演	『斯民』第4編第5号, M42. 6
42. 5. 25	香川県「木田郡斯民会」発会。評議員中川(望?), 「自治の活勢」を講演	『斯民』第4編第5号, M42. 6
42. 7. 6	「新潟県斯民会」・産業組合支会, 「第2回総会」開催	『斯民』第7編第4号, M45. 6
42. 7. 17	「大分県報徳会」発会	『斯民』第4編第7号, M42. 8
42. 8. 18	千葉県「東葛飾郡斯民会」発会。評議員井上(友一?), 講話	『斯民』第4編第8号, M42. 9
42. 8. 18	和歌山県「西牟婁郡斯民会」, 「第1回総会」開催	『斯民』第4編第8号, M42. 9
42. 8. 19	富山県「斯民会」発会	『斯民』第4編第8号, M42. 9
42. 10. 3	「三重県斯民会」発会。評議員白仁武, 祝辞。内務大臣平田東助, 講演	『斯民』第4編第10号, M42. 11
42. 10. 4	広島県「比婆郡斯民会」, 「第2回総会」開催	『斯民』第4編第10号, M42. 11
42. 10. 31	新潟県「北蒲原郡支部」, 「聯合講話会」開催	『斯民』第4編第12号, M43. 1
42. 11. 11	新潟県「刈羽郡斯民会」開催	『斯民』第4編第11号, M42. 12
42. 11. 13	新潟県「南魚沼郡斯民会支部」, 「第2回総会」開催	『斯民』第4編第12号, M43. 1
42. 11. 23	香川県「香川郡斯民会」発会	『斯民』第4編第12号, M43. 1
42. 12. 16	広島県「甲奴郡斯民会青年会」, 「尚齒会」開催	『斯民』第4編第12号, M43. 1
43. 2. 26 ～2. 28	長野県「上伊那郡斯民会」, 「第2回講習会」開催	『斯民』第5編第1号, M43. 4
43. 4. 30	「福岡県斯民会」, 総会開催	『斯民』第5編第3号, M43. 5
43. 5. 1	「新潟県中魚沼郡斯民会支部」発会	『斯民』第5編第5号, M43. 7
43. 5. 1	「福岡県斯民会」発会	『斯民』第6編第3号, M44. 6
43. 6. 25	千葉県「東葛飾郡斯民会」・教育会, 「聯合大会」開催。新渡戸(稻造?), 講演	『斯民』第5編第6号, M43. 8
43. 7. 17	新潟県三島郡寺泊の教育会・斯民会支部・農会・聯合青年会, 「聯合講演会」開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 8. 16	「新潟県斯民会東頸城郡支部」・東頸城郡青年大会, 合同大会開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 8. 8 ～8. 10	福井県「坂井郡斯民会」, 「自治改良事業講習会」開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 8. 16	「新潟県斯民会東頸城郡支部」・郡青年団, 合同大会開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 8. 20	「新潟市斯民会」, 講演会開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 10. 3	「新潟県斯民会中頸城郡支部」, 「第2回総会兼各町村部落所在青年団聯合大会」開催	『斯民』第5編第8号, M43. 10
43. 10. 16	「新潟県斯民会」, 長岡市主催「地方改良研究会」・報徳会主催「第4回報徳講演会」, 「第3回総会」開催	『斯民』第7編第4号, M45. 6
43. 10. 22	「新潟県斯民会東蒲原郡支部」, 「第2回総会」開催	『斯民』第5編第11号, M44. 1
43. 12. 10	「三重県斯民会名賀郡支部」, 「第2回総会」開催	『斯民』第5編第11号, M44. 1
44. 4. 3	「鹿児島報徳会」(花田仲之助経営), 「10周年記念大会」開催	『斯民』第6編第2号, M44. 5
44. 5. 21	「佐賀県報徳会」・「佐賀県農会」・「佐賀県教育会」, 「聯合講演会」開催	『斯民』第6編第4号, M44. 7
44. 5. 25	奈良県「高市郡斯民会」, 総会開催	『斯民』第6編第4号, M44. 7
44. 6. 18	千葉県「東葛飾郡斯民会」, 講演会開催	『斯民』第6編第4号, M44. 7
44. 8. 3 ～8. 4	「新潟県佐渡斯民会」, 「第2回大会」開催	『斯民』第6編第6号, M44. 9
44. 10. 28	「三重県斯民会桑名郡支部」・「桑名郡青年団」, 「第2回総会」開催	『斯民』第6編第9号, M44. 12
44. 10. 30	「三重県斯民会」, 「第3回総会」開催	『斯民』第6編第9号, M44. 12
45. 4. 19	山梨県「古閑報徳会」, 「第11回総会」開催	『斯民』第7編第5号, M45. 7
45. 5. 27	徳島県「川崎村二宮会」, 「第10回春季大会」開催	『斯民』第7編第5号, M45. 7
45. 6. 23 ～6. 24	「新潟県斯民会」・「(中央)報徳会」, 「第5回報徳会大会」・地方改良講演並懇談会開催	『斯民』第7編第5号, M45. 7



表 2. 「(中央) 報徳会」評議員等

	M39.4現在 「斯民」分担者(21名)	M40.4現在 本会評議員及「斯民」担任者(44名)	M42.12現在 本会評議員及家庭部評議員(79名)	M44.7現在 本会評議員(85名)
人	貴族院議員 「三井銀行」専務理事 法学博士 文学博士 農商務省山林局長 文部省普通学務局長 文部省実業学務局長 文部省参事官	※岡田 良平 ※早川千吉郎 ※一木喜徳郎 中島 力造 ※久米 金弥 澤柳政太郎 真野 文二 松本 順吉	※岡田 良平 ※早川千吉郎 ※一木喜徳郎 井上哲次郎 中島 力造 三上 参次 ※久米 金弥 澤柳政太郎 福原鏡二郎 真野 文二 松村 茂助 松浦鎮次郎 黒澤 次久 生駒 萬治 河村 善益 床次竹二郎 鈴木馬左也 伊藤長次郎 新郷戸稲造 ※桑田 熊蔵 清水 澄 矢作 栄蔵 美濃部達吉 山崎寛次郎 高野岩三郎 2名略 小河滋次郎 玉利 喜造 横井 時敬 白仁 武 押川 則吉 大久保利武 下岡 忠治 上山満之進	※岡田 良平 ※早川千吉郎 ※一木喜徳郎 井上哲次郎 中島 力造 三上 参次 ※久米 金弥 澤柳政太郎 福原鏡二郎 真野 文二 田所 美治 松村 茂助 松浦鎮次郎 黒澤 次久 針塚長太郎 幣原 坦 河村 善益 床次竹二郎 鈴木馬左也 伊藤長次郎 新郷戸稲造 ※桑田 熊蔵 清水 澄 矢作 栄蔵 美濃部達吉 山崎寛次郎 高野岩三郎 2名略 小河滋次郎 玉利 喜造 横井 時敬 白仁 武 押川 則吉 大久保利武 下岡 忠治 上山満之進
		「京都帝国大学」総長 「三井銀行」専務理事 法学博士 文学博士 農商務次官 文部次官 文部省実業学務局長 文部省参事官 文部省参事官 「東京控訴院」検事長 内務省地方局長 住友家総理事 貴族院議員 法学博士・法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 農商務次官 農商務省商工局長 農商務省山林局長	文部次官 「三井銀行」常務取締役 内務次官・法学博士 文学博士 文学博士 文学博士 前農商務次官 「東京高等商業学校」校長 文部省専門学務局長 文部省実業学務局長 文部省普通学務局長 文部書記官 文部省参事官 文部省税学官 「東京控訴院」検事長 内務省地方局長 住友家総理事 貴族院議員 法学博士・法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 農商務次官 農商務省商工局長 農商務省山林局長	文部次官 「三井銀行」常務取締役 内務次官・法学博士 文学博士 文学博士 文学博士 前農商務次官 「東京帝国大学」総長 文部省専門学務局長 文部省実業学務局長 文部省普通学務局長 文部書記官 文部省参事官 文部省税学官 「上田蚕糸専門学校」校長 文部省税学官・文学博士 「東京控訴院」検事長 内務省地方局長 住友家総理事 貴族院議員 法学博士・法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 法学博士 農商務次官 農商務省商工局長 農商務省山林局長
物	法学博士 法学博士 法学博士 農学博士 農学博士 法制局参事官	※桑田 熊蔵 清水 澄 山崎寛次郎 高野岩三郎 小河滋次郎 玉利 喜造 横井 時敬 白仁 武 大久保利武 中川友次郎	※桑田 熊蔵 清水 澄 矢作 栄蔵 美濃部達吉 山崎寛次郎 高野岩三郎 2名略 小河滋次郎 玉利 喜造 横井 時敬 白仁 武 押川 則吉 大久保利武 下岡 忠治 上山満之進	※桑田 熊蔵 清水 澄 矢作 栄蔵 美濃部達吉 山崎寛次郎 高野岩三郎 2名略 小河滋次郎 玉利 喜造 横井 時敬 白仁 武 押川 則吉 大久保利武 下岡 忠治 上山満之進



表3. 「(中央)報徳会」の「例会」等の状況

年.月.日	状 況	典 拠
M39. 6. 5	本会第12回「例会」(井上哲次郎「二宮翁の人格に就いて」他、於 本会事務所、来会者：多数評議員、文学博士井上哲次郎、「広島高等師範学校」校長北條時敬、文部省書記官松村茂助、「東京高等師範学校」教授中島信虎、他50余名)	『斯民』第1編第3号, M39. 6
39. 6. 28	本会第13回「例会」(山脇春樹の独逸製人造絹糸織物談他、於 本会事務所、来会者：多数評議員、金原明善、農商務省山林局書記官中川友次郎、等)	『斯民』第1編第4号, M39. 7
39. 7. 12	本会第13?回「例会」(文学博士三上 哲次?)「白河素翁公に就て」他、於 本会事務所、来会者：多数評議員、男爵平田東助、内務省地方局長床次竹二郎、等40有余名)	『斯民』第1編第5号, M39. 8
39.12.13	本会「月次会」(愛知県北設楽郡稲橋村村長古橋源六郎の快談他、於 「帝国教育会」、来会者：約200名)	『斯民』第1編第9号, M39.12
40. 1. 22	本会「例会」(「耐久学舎」長寶山良雄の「耐久学舎」の状況の談他、於 本会事務所、来会者：多数評議員、農学博士横井時敬、金原明善、他計24-25名)	『斯民』第1編第11号, M40. 2
40. 2. 14	本会「例会」(新渡戸稲造「地方の研究」他、於 本会事務所、来会者：本多政以、花田仲之助、中島信虎、等)	『斯民』第1編第12号, M40. 3
40. 3. 12	本会「例会」(江原素六「道徳と平等」他、於 本会事務所、来会者：奥山萬次郎、鈴木重臣、等 100数十名)	『斯民』第2編第1号, M40. 4
40. 4. 9	本会「評議員会」(於 神田一ツ橋通「学士会事務所」、来会者：多数評議員)	『斯民』第2編第2号, M40. 5
40. 7. 8	本会「講演会例会」	『斯民』第2編第5号, M40. 8
40.10.13	本会「例会講演会」と談話会	『斯民』第2編第8号, M40.11
40.11. 9	本会「例会講演会」	『斯民』第2編第9号, M40.12
41. 3. 15	本会「例月講演会」	『斯民』第3編第1号, M41. 4
41. 4. 11	本会「例月講演会」	『斯民』第3編第2号, M41. 5
41.11.14	本会「報徳講演会例会」	『斯民』第3編第11号, M41.12
42. 1. 12	本会「報徳会講演会例会」	『斯民』第3編第13号, M42. 2
42. 3. 21	本会「報徳会例会」	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42. 5. 12	本会「例会」・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「聯合講演会」	『斯民』第4編第4号, M42. 5
43. 2. 22	本会「例会」・「行政研究会」の講演	『斯民』第4編第14号, M43. 3

(備考) (1) 「(中央)報徳会」機関誌「斯民」の中で、「例会」・「月次会」・「例月」と明記されたものをを中心に掲載した。

(2) 明治40年7月8日以降は、「例会」に「講演会」が加わった呼称(「講演会例会」・「例会講演会」・「報徳講演会例会」・「報徳講演会例会」)になっている。また、同42年5月12日以降は、「例会」は他の会との聯合の形で開催されてもいる。これらの詳細は、表4. 「(中央)報徳会」主催・共催の講演会・懇話会等の状況、に掲載した。

(3) 本会とは、「(中央)報徳会」のことである。

(4) ( ) 内は、講演者・講演題目等、開催場所、来会者のいずれかである。

表4. 「(中央)報徳会」主催・共催の講演会・懇話会等の状況

年.月.日	状 況	典 拠
M39. 9. 28	「東京報徳会協議会」(評議員岡田良平の山形県下視察談他、来会者：多数評議員、内務省地方局長床次竹二郎、文部省普通学務局長白仁武、等)	『斯民』第1編第7号, M39.10
39.11.14	本会講演会(海軍軍医総監・男爵高木兼寛「修身」他、於 「帝国教育会講堂」)	『斯民』第1編第9号, M39.12
40. 2. 5	「本会有志会」(池田成章の鷹山公に関する講話、於 神田一ツ橋通「学士会事務所」、来会者：多数評議員、金原明善、中島力造、岡実、有働良夫、他20有余名)	『斯民』第1編第11号, M40. 2
40. 3. 21	「本会特別講演会」(評議員澤柳政太郎「教育に就きて」)	『斯民』第2編第1号, M40. 4
40. 4. 19	本会「特別講演会」(「農科大学」助教授矢作栄蔵「貯蓄」他、於 「帝国教育会」)	『斯民』第2編第2号, M40. 5
40. 5. 10	本会講演会(医学博士井上通泰「蕃山先生伝」他、於 「帝国教育会」)	『斯民』第2編第3号, M40. 6
40. 6. 2	本会「特別講演会」(「広島高等師範学校」校長北條時敬「勤労と教育」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第2編第3号, M40. 6
40. 6. 6	本会「特別講演会」(井上友一「地方人心の一新」他、於 「東京盲啞学校」)	『斯民』第2編第4号, M40. 7
40. 7. 8	本会「講演会例会」(文部省視学官乙竹岩造「獨逸国民の性格と勤儉の美風」他、於 「帝国教育会」)	『斯民』第2編第5号, M40. 8
40. 8. 3 ～8. 4	小田原「報徳会夏期講演会」(「遠江国報徳社」社長岡田良一郎「報徳の要旨」他、於 「小田原中学校」他)	『斯民』第2編第6号, M40. 9 坪井忍編「報徳之研究」報徳会, M40.12
40. 9. 21	本会講演会と晩餐会(文部省参事官松浦鎮次郎「外遊雑話」他、於 「帝国教育会講堂」)	『斯民』第2編第7号, M40.10
40.10.13	本会「例会講演会」と談話会(文学博士井上 哲次郎?)「道徳と経済」他、於 「帝国教育会」)	『斯民』第2編第8号, M40.11

年.月.日	状 況	典 拠
40.11.9	本会「例会講演会」(「東京高等師範学校」教授中島信虎「労働の趣味」他、於 本会事務所)	『斯民』第2編第9号, M40.12
40.11.17	島津久経・山鹿素行等諸先生の「贈位故賢記念報徳会」(三島東宮侍講の中江藤樹伊藤仁斎両先生に関する講演他、於「報徳会事務所」)	『斯民』第2編第9号, M40.12
40.12.8	本会「第1回報徳婦人会」(「東京音楽学校」校長湯原元一「音楽と品性」他、於 上野「東京音楽学校」)	『斯民』第2編第10号, M41.1
41.2.9	本会「定期講演会」(織田完之「佐藤信淵先生の家学大要及佐藤家伝統の墳墓」他、於「帝国教育会講堂」)	『斯民』第2編第12号, M41.3
41.2.22	本会「新潟県地主招待会」(前田正名の演説他、於 本会事務所)	『斯民』第2編第12号, M41.3
41.3.15	本会「例月講演会」(久米邦武「町村の発達」他、於「帝国教育会講堂」)	『斯民』第3編第1号, M41.4
41.4.11	本会「例月講演会」(法学博士鶴澤純明「老子道德経の一節」他、於「高等商業学校講堂」)	『斯民』第3編第2号, M41.5
41.5.13	本会有志「楽翁公記念報徳会」(男爵波澤栄一「経世家として見たる楽翁公」他、於「海軍大学校」)	『斯民』第3編第4号, M41.6
41.6.2	本会「談話会」と「特別講演会」(留岡幸助「官民協力の必要」他、於「東京高等工業学校」, 来会者:「赤十字社総会」の為上京した各府県事務官・郡市町村長, 等 320余名)	『斯民』第3編第4号, M41.6 『斯民』第3編第5号, M41.7
41.6.7	本会(「白仁, 北條両評議員の送別会」(於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第3編第5号, M41.7
41.6.21	本会「第2回報徳婦人会」(「第一高等学校」校長新渡戸稲造「民の恩」他、於 上野「東京音楽学校講堂」)	『斯民』第3編第5号, M41.7
41.7.6	本会, 各府県「内務部長招待会」(歴史小説家塚原洪太郎「三河武士と武士道」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第3編第6号, M41.8
41.8.1 ～8.3	「報徳会第2回夏期講演会」(鈴木馬左也「報徳記を読む」他、於「明石女子師範学校」)	『斯民』第3編第5号, M41.7 『斯民』第3編第7号, M41.9
41.8.18	本会「花田中佐歓迎小会」(花田仲之助「秋田の今二宮翁と鹿児島報徳会」他、於「学士会」)	『斯民』第3編第7号, M41.9
41.9.21	本会「感化救済講習生招待会」(心学大家川尻宝岑「愛国心」他、於「東京盲啞学校講堂」)	『斯民』第3編第8号, M41.10
41.10.28	「全国農事大会」出席者との本会「懇談会」(評議員横井時敬の田園趣味と農村の娯楽に関する講話他、於 赤坂留池「三会堂」)	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.11.14	本会「報徳講演会例会」(江岡政発「白河楽翁公の興学主義」他、於「東京府第三中学校講堂」)	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.12.13	本会・「大日本産業組合中央会」・「東京勸業協会」聯合の「戊申詔書奉読会」(中島力造「戊申詔書拝読の所感」他、於 上野不忍池畔「勸業協会楼上」)	『斯民』第3編第12号, M42.1 『斯民』第3編第13号, M42.2
41.12.13	本会「組合職員記念茶話会」(内務部長深町「陛下の御英姿と大御心に就て」(於 本会事務所)	『斯民』第3編第13号, M42.2
42.1.12	本会「報徳会講演会例会」(留岡幸助「ペスタロッチと二宮尊徳」他、(於 青山「東京府師範学校講堂」)	『斯民』第3編第13号, M42.2
42.3.21	本会「報徳会例会」(農商務省参事官岡実「中米及南米視察談」他、於 上野不忍池畔「勸業協会楼上」)	『斯民』第4編第1号, M42.4
42.3.22	本会「第1回児童報徳会」(留岡幸助「朝起の話」他、於 神田区「美土代町青年会館」)	『斯民』第4編第1号, M42.4
42.4.25	本会「3周年記念講演会」(留岡幸助「ラスキンと二宮尊徳」他、於「帝国教育会講堂」)	『斯民』第4編第2号, M42.4 『斯民』第4編第3号, M42.5
42.5.12	本会「例会」・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「聯合講演会」(男爵阪谷芳郎「欧米漫遊談」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第4編第4号, M42.5
42.7.16 ～7.18	大分県農会主催「報徳会第3回夏期講演会」(「岡山県師範学校」校長土井亀之進「模範人物二宮尊徳翁」他、於 大分町「大分県会議事堂」)	『斯民』第4編第6号, M42.7 『斯民』第4編第7号, M42.8
42.10.13	本会・「大日本産業組合中央会」・「大日本農会」合同の「戊申詔書発布1周年記念会」(法学博士男爵平田東助「戊申詔書発布一周年の所感」他、於 赤坂「三会堂」)	『斯民』第4編第10号, M42.11
42.10.16	本会「臨時報徳講演会」(国府種徳「面壁九年」他、於 青山「師範学校講堂」)	『斯民』第4編第10号, M42.11
42.12頃?	本会, 「家庭部」設置	『斯民』第4編第11号, M42.12
43.2.22	本会「例会」・「行政研究会」の講演(江原素六「教育上の実験」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第4編第14号, M43.3
43.5.27	本会「師範学校長招待会」(「大阪府天王寺師範学校」校長村田宇一郎「広村参観の動機」他、於「農商務省商品陳列館」)	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.6.5	本会「第3回報徳婦人講演会」(「農商務省商品陳列館」館長鶴見左吉雄「家庭に於ける婦人の手工業」他、於 上野「東京音楽学校講堂」)	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.6.12	本会・「一徳会」・「弘道会」・「軍事教育会」の「四会懇話」小集会(於 永田町「星岡茶寮」)	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.7.2	本会主催「地方改良事業講習会員茶話会」(農商務省商務局長大久保利武「支那人の自治心」他、於「築地本願寺」)	『斯民』第5編第6号, M43.8

年.月.日	状 況	典 拠
43.10.9	本会・内務省聯合「地方改良事業講習員懇話会」(中島力造「如何にして国民の富と元氣とを増すべき乎」他、於 芝公園「三緑亭」)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.16	本会・「新潟県斯民会」・長岡市主催「地方改良研究会」・「新潟県斯民会第3回総会」合同の「第4回報徳講演会」(桑田熊蔵「報徳と財政」他、於 「市立長岡高等小学校」)	『斯民』第5編第9号, M43.11
44.1.24	本会・「行政研究会」・「中央慈善協会」合同の手島精一・真野文二・小河滋次郎等への「新帰朝者歓迎会」(於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第5編第11号, M44.1
44.2.20	本会「新帰朝者歓迎懇談会」(林市蔵「堅実なる日本人と朝鮮人との接触が必要」他、於 麴町区八重洲町「中央亭」)	『斯民』第5編第12号, M44.2
44.5.10	本会・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「3会聯合例会」(「東京府立職工学校」校長秋保安次「職工教育の効果と職工の指導啓蒙」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第5編第13号, M44.3
44.5.27	「本会が各地高等女学校に於て試みんとする講演会」(留岡幸助「親孝行」他、於 「東京府立第二高等女学校」)	『斯民』第6編第3号, M44.6
44.6.6	本会・内務省・東京府聯合の「市郡町村長招待会」(内務書記官中川く望?)の海外視察談他、於 上野「勸業協会樓上」)	『斯民』第6編第3号, M44.6
44.12.12	本会・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「3会聯合懇話会」(評議員一木喜徳郎「丁抹で眼に着く三つの事」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第6編第4号, M44.7
45.2.7	本会・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「3会聯合懇話会」(法学博士高野岩三郎「模範とすべき独逸ツアイス工場」他、於 神田一ツ橋通「学士会」)	『斯民』第6編第10号, M45.1
45.2.18	本会主催「第5回家庭講習会」(駐英全權大使・男爵加藤高明「英国の子女教育と社交上の慣習」他、於 本郷元富士町「前田侯爵邸洋館」)	『斯民』第6編第12号, M45.3
45.3.20	本会・「行政研究会」・「中央慈善協会」の「3会聯合懇話会」(農商務書記官鶴見く左吉雄?)の欧米視察談他、於 八重洲町「中央亭」)	『斯民』第6編第12号, M45.3
45.4.29	本会・「弘道会」・「一徳会」・「軍事教育会」の「4会聯合懇話会」(於 「華族会館」)	『斯民』第7編第1号, M45.4
45.6.23 ～6.24	本会・「新潟県斯民会」主催「第5回報徳大会並地方改良講演及懇談会」(一木喜徳郎「新潟大会所感」他、於 新潟市「新潟師範学校」)	『斯民』第7編第2号, M45.5
45.7.20	本会・「弘道会」・「一徳会」・「軍事教育会」の「4会聯合懇話会」(於 「華族会館」)	『斯民』第7編第3号, M45.6
		『斯民』第7編第5号, M45.7
		『斯民』第7編第6号, T元.8

(備考) (1)本会とは、「(中央)報徳会」のことである。

(2) ( ) 内は、講演者・講演題目等、開催場所のいずれかである。

表5.『斯民』の項目別記事数等

項 目	M39年度	M40年度	M41年度	M42年度	M43年度	M44年度	M45年度	合計	上段の主な題名
世界之知識						1 77	1 32	2 109	「英文報徳記英京倫敦に出版せらる」
論 説 (講 演)	5 17		10		1	2			「二宮尊徳翁の主義及人格」「報徳実業論」「二宮翁の人格と今日の教育」
講 話	3 14	17 63	43	13	32	26		63 385	「報徳社と信用組合」「二宮尊徳翁の主義に就て倫理学上より所感を述ぶ」
説 苑	2 26		9 33		1 42	0 6			「二宮先生の倫理説」「富田高慶翁と西郷南洲翁」「ベスタロツチと二宮尊徳」
本 欄						9 65	3 63	12 128	「産業組合と報徳社の融合」「時代の進運動と報徳社の態度」「報徳畑より」
自 治 (, 民政)	0 4	6 36	6 68	6 65	1 23			19 196	「自治制と報徳」「二宮翁と名主褒賞」「報徳主義の信用組合」「静岡県下の模範部落」
教 育	0 6	7 46	5 68	6 64	1 48	0 43		19 281	「二宮翁と農業訓練」「二宮翁と農業教育」「斯民叢話」「丹波の郡是製糸会社」「相馬二宮翁の遺蹟」「経済思潮と報徳主義」「勤儉力行に関する教訓」「報徳の四綱領と歐洲に於ける四個の徳目」「相州栢山村の惨状と本会の慰問」
産 業	0 6								
報 徳		2 2						2 2	「予が涅槃経の序品」「報徳会夏期講演会奉告祭祀詞」
地方改良				0 6	4 36	3 54		7 96	「韓国に於ける二宮神社」「広村の特色」「二宮翁の遺跡たる野州桜町の現状」

項 目	M39年度	M40年度	M41年度	M42年度	M43年度	M44年度	M45年度	合計	上段の主な題名
青 年 叢 談					0 3			0 3	
青 年 団				2 33	11 79	3 88	2 22	18 222	「青年時代に於ける二宮翁の面影」「古橋源六郎翁の幼時」
青 年 論 纂					0 5			0 5	
青年会事蹟					0 5			0 5	
家 庭	0 6	1 29	0 22	1 28				2 85	「二宮先生頌徳の歌 神奈川県桜井高等学校」「石川県河北郡の報徳講演会」
家 事 家 政				0 6				0 6	
文 苑	2 2							2 2	「読大久保忠真侯国歌申其意」「報徳風詠舎の記」
研 究	0 1							0 1	
談 片 集	1 5							1 5	「人心の開発と仕法の制定」
訪 問	1 6							1 6	「二宮翁と品川子爵」
史 林	2 15	5	3	0 7				14	「小野江善六翁小伝」「二宮先生の七哲願」「江川坦庵翁五十五年追慕会」
観 光	4 8	29	28					87	「栢山詣での記」「駿河みやげ（上）」
視 察	0 6							0 6	
思 潮	0 27	0 1						0 28	
訓 言		2 4						2 4	「二宮翁の遺言響」「富田翁の謨奪弁」
雑 俎		1 5						1 5	「家庭学校の事業」
談 叢	6 16	0 2						6 18	「金原明善翁の成功に就きて」「二宮尊徳翁逸事」「荒地開発主義の実行」
寄 書 特 別 寄 書	4 7							4 7	「鳥取県管内報徳社の状況」「再び柳田国男氏の報徳社と信用組合論を読む」
偶 感 録	0 4							0 4	
遺 蹟 遺 蹟	6 6	4 4						10 10	「報徳本教 青木村治續」「小報徳記」
他 山 之 石					0 2			0 2	
自 治 講 話						0 13	0 4	0 17	
附 録 講 談	1 1	1 1		0 1				2 3	「二宮尊徳翁の人格及学説に就いて」「講談 幼児の二宮尊徳翁」
合 計	37 183	46 222	33 262	28 293	19 275	18 372	6 121	187 1,728	

〔典拠〕『斯民』第1編第1号（報徳会，明治39年4月）～『斯民』第7編第5号（報徳会，明治45年7月）より作成。

〔備考〕(1)各項目ごとの数は目次による。各項目ごとの題名は，目次ではなく本文に掲載されている題名による。

(2)各欄の下段の数は，その年度のその項目における記事の全体数。各欄の上段の数は，その年度のその項目において，題名に「二宮尊徳」，「二宮」，「尊徳」，「報徳」，「斯民」，「斯の心」，「報徳社」，「報徳会」，「斯民会」，「勤儉貯蓄」・「勤儉力行」・「道徳と経済の一致」・「心の開拓」等の報徳の用語，報徳人の名前，報徳縁の地名，が入っているものの数。

(3)「表紙絵及口絵」，「叢報」，「叢録」，「時報」は，省略。

(4)『斯民』第7編第2号（報徳会，明治45年5月）の「世界之知識」，「本欄」という項目名は，同編同号の目次・本文に明記されていないが，『斯民第七編総目次』に明記されているので，それにより分類分けした。

表6. 『斯民』における静岡県下報徳社に関する主な記事

Na	著 者	題 名	内 容	典 拠
1	柳田 国男	「報徳社と信用組合」	報徳社の金融機関としての働き	『斯民』第1編第2号, M39. 5
2	平田東助談	「二宮翁と品川子爵」	報徳社と信用組合	『斯民』第1編第3号, M39. 6
3	斎藤音作談	「金原明善翁の成功に就きて」	金原明善の主義と活動	『斯民』第1編第5号, M39. 8
4	留岡 幸助	「報徳社と信用組合 (第二号続ぎ)」	報徳社の金融機関としての働き	『斯民』第1編第6号, M39. 9
5	山田 霞洲	「小野江善六翁小伝」	小野江善六の活動	『斯民』第1編第7号, M39.10
6	都倉 義一	「模範の農村 (一)」	「杉山報徳社」の歴史	『斯民』第1編第9号, M39.12
7	国府 犀東	「駿河みやげ (上)」	静岡県下の報徳旅行	『斯民』第1編第10号, M40. 1
8	中上正一郎	「静岡県報徳社及同青年報徳会新年会」	新年会の報告	『斯民』第1編第10号, M40. 1
9	李家 隆介	「町民の発展策」	榛原郡相良町での町村発展策の演説	『斯民』第1編第11号, M40. 2
10	国府 犀東	「駿河みやげ (中)」	静岡県下の報徳旅行	『斯民』第1編第11号, M40. 2
11	都倉 義一	「模範の農村 (二)」	「杉山報徳社」の活動	『斯民』第1編第12号, M40. 3
12	国府 犀東	「駿河みやげ (下)」	静岡県下の報徳旅行	『斯民』第1編第12号, M40. 3
13	西ヶ谷可吉	「二宮翁と柴田順作」	尊徳と柴田順作との関係	『斯民』第2編第4号, M40. 7
14	?	「遠江国報徳社岡田社長頌徳式」	岡田良一郎への頌徳文	『斯民』第2編第4号, M40. 7
15	西ヶ谷可吉	「二宮翁と柴田順作 (つゞき)」	尊徳と柴田順作との関係	『斯民』第2編第5号, M40. 8
16	?	「静岡県田方郡の力行奨励」	力行農民の評賞	『斯民』第2編第5号, M40. 8
17	林 静治	「静岡みやげ」	静岡県等の視察	『斯民』第2編第6号, M40. 9
18	?	「小田原の夏期講演会」	岡田良一郎の講演等	『斯民』第2編第6号, M40. 9
19	岡田 良平	「国本は田舎に在り」	静岡・神奈川地方の報徳社の機能	『斯民』第2編第7号, M40.10
20	都倉 義一	「模範の農村 (三)」	静岡県杉山村片平信明の偉業	『斯民』第2編第7号, M40.10
21	岡田良一郎	「予が涅槃経の序品」	岡田良一郎の涅槃解釈	『斯民』第2編第7号, M40.10
22	林 静治	「統静岡みやげ」	静岡県下報徳社等の視察	『斯民』第2編第7号, M40.10
23	高林維兵衛	「農工銀行と地方の融資」	静岡県有玉村の資金融通等	『斯民』第2編第8号, M40.11
24	中村 英雄	「多趣なる農業館」	静岡県清水村の記念農業館の活動	『斯民』第2編第8号, M40.11
25	李家 隆介	「善農と村の生神」	農業に関する事業	『斯民』第2編第10号, M41. 1
26	鈴木藤三郎	「報徳の精神」	岡田良一郎への事業に関する相談等	『斯民』第2編第10号, M41. 1
27	岡島 悦雄	「三遠農学社支社大会」	「三遠農学社」支社大会の状況	『斯民』第3編第1号, M41. 4
28	会員	「駿河東報徳社の春季総会」	「駿河東報徳社」総会の状況	『斯民』第3編第2号, M41. 5
29	?	「報徳会第二回夏期講演会」	鈴木藤三郎の講演等	『斯民』第3編第7号, M41. 9
30	?	「京都に於ける報徳講演会」	山田猪太郎の講演等	『斯民』第3編第7号, M41. 9
31		「静岡県報徳社事蹟」・「報徳社定款模式註釈」・「報徳結社の栄」(宣伝)		『斯民』第3編第7号, M41. 9等
32	?	「静岡県志太郡報徳社聯合研究会」	岡田良一郎の講演等	『斯民』第3編第8号, M41.10
33	?	「静岡県小笠郡の報徳社聯合大会」	静岡県知事李家隆介の講演等	『斯民』第3編第13号, M42. 2
34	矢田増次郎	「報徳主義の信用組合」	静岡県榛原郡川崎町勝俣の状況	『斯民』第3編第14号, M42. 3
35	李家 隆介	「勤儉自強の要義」	静岡県知事李家隆介の戊申詔書解釈	『斯民』第4編第2号, M42. 4
36	小島源三郎	「西遠山間に於ける模範的報徳社員」	西遠における模範的報徳社員の活動	『斯民』第4編第5号, M42. 6
37	岡田良一郎	「二宮大先生塑像の記」	長愛之による尊徳像製作の状況	『斯民』第4編第13号, M43. 2
38		「第一回地方自治奨励」	静岡県庵原村片平九郎左衛門への奨励	『斯民』第4編第14号, M43. 3
39	?	「稲取村の大火」	模範村静岡県稲取村の大火の状況	『斯民』第4編第14号, M43. 3
40	?	「遠州報徳社大講演会」	一木喜徳郎・留岡幸助等の講演	『斯民』第5編第3号, M43. 5

No	著 者	題 名	内 容	典 拠
41	?	「静岡県庵原郡産業教育青年大会」	農商務省農事試験場園芸部での実験等	『斯民』第5編第12号, M44. 2
42	花田仲之助	「静岡県下の名村と篤志家」	静岡県下報徳人への訪問	『斯民』第5編第12号, M44. 2
43	小島源三郎	「組合法発布前に於ける産業組合」	品川弥二郎施策や「掛川信用組合」等	『斯民』第6編第7号, M44.10
44	小河滋次郎	「掛川より」	静岡県掛川町の報徳社の活動等	『斯民』第6編第9号, M44.12
45	檜岡 徹	「地方改良講習会員の関西視察」	静岡県庵原村等の視察	『斯民』第6編第9号, M44.12
46	松井 茂	「報徳社に対する希望」	静岡県下報徳社への希望	『斯民』第6編第12号, M45. 3
47	田村 武治	「報徳畑より」	静岡県「不二報徳社」の活動	『斯民』第6編第12号, M45. 3
48	生江 孝之	「静岡より, 愛知より」	静岡県下報徳人等の調査等	『斯民』第6編第12号, M45. 3
49	?	「静岡県報徳社協議会」	静岡県報徳社協議会の状況	『斯民』第6編第12号, M45. 3
50	留岡 幸助	「杉山部落の道徳と経済」	静岡県庵原村杉山の状況	『斯民』第7編第2号, M45. 5
51	?	「駿河の知足財団」	静岡県駿東郡富士岡村の本財団の歴史	『斯民』第7編第2号, M45. 5
52	田沢 義鋪	「静岡県安倍郡聯合青年大会」	片平信明翁の墓詣で等	『斯民』第7編第2号, M45. 5
53		「駿河庵原村東方尋常小学校校長谷豊吉氏二十年勤続祝賀謝恩会」(写真)	同左	『斯民』第7編第3号, M45. 6

表7. 「(中央) 報徳会」編纂または発行の図書等

年.月.日	書 名 等	宣伝し始めた『斯民』の編・号
M39. 4. 23	『斯民』創刊, 「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第1編第1号, M39. 4
39. 3. 5	岡田良平著「二宮尊徳翁五十年記念帖」西東書房発行	『斯民』第1編第1号, M39. 4
39?	「二宮尊徳翁教訓絵端書」(6枚1組)「(中央) 報徳会」発行?)	『斯民』第1編第2号, M39. 5
39?	「二宮尊徳翁遺詠」(短冊色紙共三葉)「(中央) 報徳会」発行?)	『斯民』第1編第2号, M39. 5
39?	内務書記官井上友一「列国の形勢と民政」(再版)(申込所: 「(中央) 報徳会」事務所)	『斯民』第1編第3号, M39. 6
39?	内務書記官井上友一「欧西自治の大観」(再版)(申込所: 「(中央) 報徳会」事務所)	『斯民』第1編第3号, M39. 6
39?	「二宮尊徳翁教訓絵葉書」(新刊, 6枚1組)「(中央) 報徳会」発行?)	『斯民』第1編第3号, M39. 6
40.12.20	『報徳の研究』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第2編第5号, M40. 8
42. 1. 20	『明石講演集』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第3編第6号, M41. 8
?	松平子爵家蔵版, 桑翁公自筆「三草集」(申込所: 「(中央) 報徳会」)	『斯民』第3編第12号, M42. 1
42. 5. 28	『婦人號』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42.12.23	『香川県報徳講演集完』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第4編第10号, M42.11
43. 1. 1	『斯民家庭』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第4編第11号, M42.12
42?	「(中央) 報徳会」編『国乃光』	『斯民』第4編第11号, M42.12
43. 3	内務省地方局編『合冊 地方経営小鑑 地方行政史料小鑑』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第5編第13号, M44. 3
43. 3	内務省地方局編『合冊 感化救済小鑑 欧米自治救済小鑑』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第5編第13号, M44. 3
44?	「(中央) 報徳会」編『斯民講壇第壹編 修養の燭光』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第6編第5号, M44. 8
44?	「(中央) 報徳会」編『斯民講壇第二編 忠孝節義』上・下, 「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第6編第5号, M44. 8
44?	「(中央) 報徳会」編『斯民講壇第三編 欧米之新彩』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第6編第5号, M44. 8
45?	国府種徳・井口丑二編『古橋源六郎翁』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第6編第11号, M45. 2
45?	内務省地方局編『地方改良要項』「(中央) 報徳会」発行(改版補訂)	『斯民』第6編第11号, M45. 2
45?	斯民家庭部編『古今手かゝみ』「(中央) 報徳会」発行	『斯民』第6編第11号, M45. 2
45?	「(中央) 報徳会」編『自治事務の栞』	『斯民』第7編第5号, M45. 7



表 8. 「(中央) 報徳会」評議員による各地の講演会・講習会等での講演等の状況

年.月.日	状 況	典 拠
M40. 4. 27 ～ 4. 28 40. 夏	井上友一・留岡幸助, この期間の「愛知県篤農家懇談会」で講話(於 安城「愛知県立農林学校」)	『斯民』第2編第3号, M40. 6
40.10.15 ～10.16	白石正邦, 大原孫三郎経営の紡績会社職工・学生への「日曜講演」で講演(於 岡山県倉敷)	『斯民』第2編第7号, M40.10
40.11.17	一木(喜徳郎?)・田村(武治?), この期間の「愛知県篤農会」で講演(於 安城農林学校?)	『斯民』第2編第8号, M40.11
40?	留岡幸助, 「友愛義団」開催の講演会で「二宮尊徳翁の三緯名」・「家庭より見たる親孝行」・「二宮尊徳翁の道德及経済」を講演(於 栃木県足利町)	『斯民』第2編第8号, M40.11
40.11.24 ～11.25	留岡幸助, この期間の奈良の「報徳記念会」で「独立自営」談と「教育上より見たる親孝行」を講演(於 奈良県立桜井高等女学校)・「奈良市公会堂」)	『斯民』第2編第10号, M41. 1
41. 1. 9	留岡幸助, 「何鹿郡青年会大会」で「勤労の社会的価値」を講演(於 京都府何鹿郡綾部町)	『斯民』第2編第11号, M41. 2
41. 1. 19	多数評議員, 「松雲公前田綱紀卿の民政及文教に関する事蹟の談話会」に出席(於 本郷「前田利為侯爵邸」)	『斯民』第2編第11号, M41. 2
41. 2. 18	留岡幸助, 広島県各地有志の会で「報徳教の四大綱」を講演(於 広島県深安郡福山町「葦陽館」)	『斯民』第2編第12号, M41. 3 『斯民』第3編第1号, M41. 4
41. 2. 18?	留岡幸助, 大阪博愛社主催「慈善演芸会」で「受くる業と与うる業」を講演(於 広島県?)	『斯民』第2編第12号, M41. 3
41. 2. 19	留岡幸助, 「自治と勤労, 町村の自治, 二宮翁の勤労」・「天道と人道」を講演(於 広島県三原の高等小学校)	『斯民』第2編第12号, M41. 3
41. 2. 19	留岡幸助, 二宮翁の人生観に関する講話(於 広島県西條町「教善寺」)	『斯民』第2編第12号, M41. 3
41. 2. 20	留岡幸助, 「広島県師範学校女子部」・私立高等女学校等生徒, 一般婦人の為に「孝道」を講演(於 広島県立「広島高等女学校講堂」)	『斯民』第2編第12号, M41. 3
41. 2. 21	留岡幸助, 講演(於 広島?市会議事堂)	『斯民』第2編第12号, M41. 3
41. 2. 27 ～ 3. 1	留岡幸助, この期間の島根県下の「斯民講演会」で報徳に関する道德経済説を講演(於 松江市)	『斯民』第3編第1号, M41. 4
41. 3. 15	留岡幸助, 「三遠農学社支社大会」で「調和の特色」を講演(於 愛知県渥美郡野田村「法華寺」?)	『斯民』第3編第1号, M41. 4
41. 4. 1?	留岡幸助, 数回講演(於 米子町)	『斯民』第3編第1号, M41. 4
41. 4. 3	国府種徳, 「駿河東報徳社」春季総会で「農村は国の原動力なり」を講演(於 静岡県庵原郡袖師村西久保「龍雲院」)	『斯民』第3編第2号, M41. 5
41春	留岡幸助, 「報徳講演会」で「耶穌坊主談」を講演(於 広島県甲奴郡吉野村)	『斯民』第3編第6号, M41. 8
41. 4. 24 ～ 4. 26	床次竹二郎・原(照?)・矢作栄蔵, この期間の「愛知県農会」主催「篤農会懇談会」・「有志懇話会」・「園芸大会」のいずれかに出席(於 名古屋市「安城農林学校」)	『斯民』第3編第2号, M41. 5
41. 5. 16	井上友一, 「大日本婦人教育会」で「白河案翁公の家庭」を演説	『斯民』第3編第4号, M41. 6
41. 5. 20	留岡幸助, 「小田原報徳社」主催「小田原報徳講演会」で「二宮翁研究」を講演。国府種徳, 同会で「田園学」を講演(於 小田原市内県立中学校)	『斯民』第3編第4号, M41. 6
41. 5. 24	一木喜徳郎, 「教育総会」で「二宮翁の知足観」を講演。新渡戸稲造, 同会で「近世の教育」を講演(於 群馬県師範学校)	『斯民』第3編第4号, M41. 6
41. 6. 18 ～ 6. 19	多数評議員, この期間の「新潟県地主協会」・「新潟県斯民会」・「産業組合支会」の三会合同大会に出席	『斯民』第3編第5号, M41. 7
41. 6. 19	湯原元一, 「新潟県斯民会」で「都鄙の教育」を講演(於 「新潟県会議事堂」)	『斯民』第3編第5号, M41. 7
41. 6. 20 ～ 6. 21	湯原元一, この期間の「新潟県教育会」で報徳の精神を鼓吹せざるべからざることを講演(於 新潟市)	『斯民』第3編第5号, M41. 7
41. 7. 11 ～ 7. 12	国府種徳, この期間の「山梨県聯合講演会」で「自治体と田園学」・「日本建国の大規模」を講演。桑田熊蔵, 同会で「経済と道德」を講演。鶴見(左吉雄?), 同会で「貿易上の諸問題」を講演(於 山梨県旧城内「機山館楼上」)	『斯民』第3編第6号, M41. 8
41. 7. 27 ～ 7. 29	柳田国男・原照・留岡幸助, この期間の広島県の「第3回報徳講話会」で講話(於 三次郡「三原町高等小学校」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 8. 2	床次竹二郎・中川(望?), 「尊農協会創立総会」に出席(於 「明石女子師範学校講堂」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 8. 4 ～ 8. 5	多数評議員, 「京都府農会」主催「報徳講演会」で講演(於 「京都府立第一高等女学校講堂」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9 京都府農会「報徳講演集」M41.12
41. 8. 5	床次竹二郎, 富山の「納税成績表彰式」で演説(於 「富山高等女学校」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 8. 10	桑田(熊蔵?), 倉吉の報徳社発会式で「本会の趣旨」を講演。中川(望?), 同会で「自治と報徳の精神」を講演(於 倉吉の「成徳小学校」?)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 8? .12	桑田熊蔵, 鳥取市の「報徳講演会」で「報徳の趣旨」を講演。三松(武夫?), 同会で「調和」を講演。中川(望?), 同会で「協同推譲の精神とは何ぞや」を講演(於 「鳥取県県会議事堂」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9

年.月.日	状 況	典 拠
41. 8. 19	河村善益,「新潟県民会」の「臨時講話会」で「仏蘭西魂」を講話(於「新潟市役所楼上」)	『斯民』第3編第8号, M41.10
41. 8. 20	河村善益,「新潟県民会北蒲原郡支部」発会で講演(於「新発田高等小学校」)	『斯民』第3編第8号, M41.10
41. 8. 20 ～8. 27	国府種徳, この期間の「奈良県宇陀郡教育会夏期講習会」で「町村自治並に報徳の要義」を講演(於「宇陀郡「大野高等小学校」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 9. 1 ～10. 7	多数評議員, この期間の内務省主催第1回「感化救済事業講習会」で講演(於「国学院大学」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9 『斯民』第3編第8号, M41.10 『斯民』第3編第10号, M41.11
41. 9. 7	中川(望?), 福井県「坂井郡民会」講演会で「民政の改良と矯風提善」を講演	『斯民』第3編第10号, M41.11
41. 9. 12	桑田熊蔵,「報徳講演会」で「報徳の趣旨」を講演(於「鳥取市「県会議事堂」)	『斯民』第3編第7号, M41. 9
41. 9. 20	一木喜徳郎,「秋田県教育会」主催「平田篤胤, 佐藤信淵両大人の功績褒表会」で「所感」を講演。新渡戸稲造, 同会で「佐藤先生に就て」を講演(於「神田一ツ橋通「帝国教育会講堂」)	『斯民』第3編第8号, M41.10
41. 9. 20	留岡幸助, 静岡県志太郡「報徳社聯合研究会」並びに「善行者賞与式講演会」で「報徳と農業及教育」を講演(於「藤枝町「積穀本部」)	『斯民』第3編第8号, M41.10
41. 9. 29 ～9. 30	留岡幸助, この期間の「広島県農会」主催「農事講話会」で「共同の精神」を講話(於「広島公会堂」)	『斯民』第3編第10号, M41.11
41. 9. 29	国府種徳, 東京府下五日市町の「郡報徳青年会」発会式で「報徳主義と列国の趨勢」を講演(於「四多摩郡戸倉村」)	『斯民』第3編第10号, M41.11
41.10. 3	井上(友一?),「和歌山県自治民政講話会」で講演会(於「和歌山中学校講堂」)	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.10. 7	多数評議員,「中央慈善協会」発会式に出席(於「国学院大学」)	『斯民』第3編第9号, M41.11
41.10. 8 ～10. 9	国府種徳, この期間の「京都府蠶絲大会」・「京都府農会」農談会・「相楽郡報徳会」等の「聯合大集談会」で「田園と都市との連絡」を講演(於「京都府相楽郡木津町」)	『斯民』第3編第10号, M41.11
41.10.13 ～10.14	国府種徳, この期間の「白河桑翁公贈位記念講演会」で「桑翁公の力行主義」を講演(於「白河町」)	『斯民』第3編第9号, M41.11
41.10.14 ～10.16	留岡幸助, この期間の大分県「四日市町報徳会」発会式で「感化事業より見たる家庭教育」を講演(於「大分県宇佐郡四日市町」)	『斯民』第3編第9号, M41.11 『斯民』第3編第11号, M41.12
41.10.21 ～10.22	多数評議員, この期間の「長野県農会」・「信濃教育会」・「信濃山林会」・「大日本産業組合中央会長野支会」・「聯合「長野県報徳講演会」で講演(於「長野市」)	『斯民』第3編第10号, M41.11 長野県報徳講演会「報徳講演集」 M43.10
41.10.30	床次(竹二郎?)・大久保(利武?)・中川(望?),「埼玉県第1回篤志者懇談会」で談話(於「浦和町師範学校」)	『斯民』第3編第10号, M41.11
41.11.22	国府種徳,「東京府下南多摩郡教育会」総集会で「自治経営と報徳主義」を講演(於「八王子町高等小学校講堂」)	『斯民』第3編第11号, M41.12
41.11.28	中川望, 千葉県佐原町教育総会で講演	『斯民』第3編第12号, M42. 1
41.12.12	一木喜徳郎, 宮城県「市町村治績褒表式」・「普通教育効績者褒奨式」で演説(於「宮城県会議事堂」)	『斯民』第3編第12号, M42. 1
41.12.13	一木喜徳郎・井上友一,「仙台報徳会」の「報徳講演会」で講演(於「宮城県会議事堂」)	『斯民』第3編第12号, M42. 1
41.12.16 ～12.17	留岡幸助, この期間の京都府船井郡「報徳講習会」で講演(於「園部町」)	『斯民』第3編第12号, M42. 1
41.12.18	鈴木藤三郎, 京都府船井郡「報徳講習会」で報徳の実験談	『斯民』第3編第12号, M42. 1
42. 1. 6 ～1. 8	留岡幸助, 埼玉県下「報徳講演会」等で講演	『斯民』第3編第13号, M42. 2
42. 1. 24	中川(望?), 神奈川三浦郡・横須賀市の「聯合農産物品評会并に褒賞授与式及講話大会」で講話(於「横須賀市豊島小学校」)	『斯民』第3編第13号, M42. 2
42. 1. 26 ～2. 28	留岡幸助, 兵庫県・京都府・三重県を巡講	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 6	中川(望?), 千葉県山武郡の戊申詔書奉読式で「良風の作興」を講演(於「山武郡東金町」)	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 8	国府種徳, 西多摩郡「小学校長会」・「町村長会」・「郡農会」等の「聯合講演会」で「文明と報徳主義」を講演(於「西多摩郡青梅町「西多摩郡役所楼上」)	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 13	中川望, 東京府南千住町教育会・青年会・公民館等発起の「戊申詔書奉読式」で詔書解釈(於「南千住町「第一瑞光小学校」)	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 14	国府種徳,「千葉県尚風会」発会式で「民政研究」を講演(於「山武郡東金町「西福寺」)	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 2. 21	国府種徳, 茨城県「筑波郡民会」発会式で「地方の原動力」を講演(於「矢田部町小学校」)	『斯民』第3編第14号, M42. 3
42. 3. 24	留岡幸助, 長野県「上伊那郡民会」発会式で講演(於「農学校講堂」)	『斯民』第4編第1号, M42. 4
42. 3	留岡幸助・柳田国男, 神奈川県の巡回講演会で講演	『斯民』第4編第1号, M42. 4

年.月.日	状 況	典 拠
42.3.27	原 稔,「新潟県園芸大会及日本園芸新潟支会発会式」で「新潟県下に於ける園芸」を講演(於 「新潟県会議事堂」)	『斯民』第4編第5号, M42.6
42.5?	留岡幸助,兵庫県赤穂の講演会で講演?	『斯民』第4編第4号, M42.5
42.5.21 ～5.22	中川望・留岡幸助,この期間の「香川県農会」主催「報徳講演会」で講演	『斯民』第4編第5号, M42.6 報徳会『香川県報徳講演集 完』 M42.12
42.5.23	国府種徳,「東京府郡部聯合教育会及南多摩郡教育総会」で「町村の娯楽問題」を講演(於 八王子町「府立織染学校」)	『斯民』第4編第5号, M42.6
42.5.24	留岡幸助,徳島県「名西郡斯民会」発会式で「報徳と農業」を講演(於 名西郡)	『斯民』第4編第5号, M42.6
42.5.25	留岡幸助,徳島県「三好郡川崎村二宮会大会并に講演会」で「報徳と其応用」を講演	『斯民』第4編第5号, M42.6
42.5.25	中川(望?),香川県「木田郡斯民会」発会式で「自治の活勢」を講演(於 池戸町「西徳寺」)	『斯民』第4編第5号, M42.6
42.5.26 ～6.4?	留岡幸助,高知県下で巡回講演	『斯民』第4編第6号, M42.7
42.7.6	三松(武夫?),「新潟県斯民会」・「大日本産業組合中央会新潟支会」の「合同大会」で「地主に就て」を講演。留岡幸助,同会で「報徳心と協同心」を講演(於 「新潟県会議事堂」)	『斯民』第4編第7号, M42.8
42.7.12 ～8.1	多数評議員,内務省主催「地方改良事業講習会」で講演(於 「国学院大学」)	『斯民』第4編第7号, M42.8
42.7.20	多数評議員,大分県「宇佐郡農会」主催「第2回報徳講演会」で講演(於 大分県四日市町)	『斯民』第4編第7号, M42.8
42.7.22	多数評議員,大分県日田町「報徳講演会」で講演(於 日田町「大長寺」)	『斯民』第4編第7号, M42.8
42.7?	中島信虎,「島根県報徳会」で数回講演。その他,島根県の能義・大原・飯石郡で講演	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.1 ～8.7	多数評議員,この期間の「千葉県尚風会」の第1回「夏期講習会」で講演(於 東金町)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.2 ～8.11	井上友一,この期間の「東京市教育会」の図書館に関する講習会で講演(於 神田区駿河台「小川小学校」)	『斯民』第4編第6号, M42.7
42.8.10 ～8.12	留岡幸助,この期間の「淡路報徳会講演会」で講演?	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.11 ～8.12	多数評議員,この期間の「岐阜県地主協会」設立の為の「報徳講演会」で講演(於 「西別院」)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.14	桑田熊蔵,鳥取県の「因伯報徳社聯合会」の報徳講演会で「報徳と財政の関係」を講演(於 鳥取県「東伯郡会議場」)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.15	留岡幸助,福井県「三方郡青年大会」で講演?(於 三方郡金山村「龍潭寺」?)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.17?	中川望,講習会で「地方改良の精神的要件」を講演(於 高野山「普賢院」?)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.17 ～8.18	留岡幸助・横井時敏,派出講師長沢則彦,富山県講演会で講演	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.17 ～8.19	留岡幸助,この期間の富山県の「旌表式及報徳講演会」・「斯民会」発会式で「報徳談」・「良町村は如何にして出来るか」を講演。横井時敏,同会で「都鄙比較論」を講演(於 「富山高専女学校」)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.18	井上(友一?),千葉県「東葛飾郡斯民会」発会式で講演(於 松戸町「郡会議事堂」)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.22 ～8.24	留岡幸助,この期間の石川県河北郡「斯民教育講習会」で「教育上より見たる感化事業」・「農村と報徳」・「農村の報徳」・「報徳と其応用」を講演	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.8.23 ～8.25	中島信虎,この期間の島根県「報徳講演会」で「報徳会に就て」を講演(於 「松江中学校講堂」)	『斯民』第4編第8号, M42.9
42.9.9 ～9.18	中川望,この期間の福島県主催「農村経営講習会」で「農村と自治」を講演	『斯民』第4編第10号, M42.11
42.10.2 ～10.3	岡(実?),この期間の滋賀県・「滋賀県教育会」聯合「大講演会」で「農工業の経営」を講演(於 滋賀県長浜通「大通寺」)	『斯民』第4編第11号, M42.12
42.10.3	白仁武,「三重県斯民会」発会式で祝辞(於 宇治山田「第四中学校」)	『斯民』第4編第10号, M42.11
42.10.11 ～11.1	多数評議員,この期間の内務省主催「第2回地方改良事業講習会」・「第2回感化救済事業講習会」で講演(於 「文部省修文館楼上」)	『斯民』第4編第10号, M42.11 『斯民』第4編第11号, M42.12
42.11.1	中川(望?),「中央慈善協会」の「第2回総会」で挨拶(於 小石川の植物園)	『斯民』第4編第11号, M42.12
42.11.6	多数評議員,留岡幸助経営「家庭学校創立10周年記念会」に出席(於 巣鴨「家庭学校」)	『斯民』第4編第11号, M42.12
42.11.8 ～11.11?	留岡幸助,この期間の「長野県農会」・「長野県教育会」・「長野県山林会」・「大日本産業組合中央会長野支会」主催第2回「長野県報徳講演会」で「山と報徳」・「邦家の二大柱石」を講演。井上(友一?),同会で「希望五ヶ條」を講演(於 松本市「神道公所」)	『斯民』第4編第11号, M42.12 長野県報徳講演会『報徳講演集』 M43.10

年.月.日	状 況	典 拠
42.11.28	手島精一, 手島の還暦祝賀会に出席 (於 「上野精資軒」)	『斯民』第4編第11号, M42.12
42.12.13	多数評議員, 「産業組合中央会」創立総会に出席 (於 「農商務省会議室」)	『斯民』第4編第12号, M43.1等
42.12.19	多数評議員, 「中央慈善協会」懇談会に出席 (於 「東京盲啞学校講堂」)	『斯民』第4編第12号, M43.1
43.1.23	国府種徳, 「千葉県一ノ宮尚風会」発会式で「無駄骨を厭ふ勿れ」を講演	『斯民』第4編第13号, M43.2
43.3.12	留岡幸助, 茨城県の「篤行者旌表式」で講話 (於 「茨城県会議事堂」)	『斯民』第5編第1号, M43.4
43.3.13	三上 (参次?), 「加藤清正公三百年祭」で講演 (於 「水交社」)	『斯民』第5編第1号, M43.4
43.3.16 ～3.29	留岡幸助, 「広島県民政講演会」で演説 (於 広島県下各地)	『斯民』第5編第3号, M43.5
43.4.3 ～4.4	多数評議員, この期間の「遠江国報徳社」の「二宮尊徳翁塑像鎮盟祭及報徳大会」で講演 (於 「遠江国報徳社第三館公会堂」・「掛川劇場掛川座」)	『斯民』第5編第3号, M43.5 『大日本報徳学友会報』第95号, M43.4
43.4.5	国府種徳, 「浜松報徳婦人大会」で「国を育つる勤」を講演 (於 浜松町「元城報徳館」)	『大日本報徳学友会報』第95号, M43.4
43.4.6	留岡幸助, 愛知県北設楽郡「青年大会」で講演	『斯民』第5編第4号, M43.6
43.4.7	新渡戸稲造, 「九州沖繩8県聯合青年大会」で演説 (於 福岡市「明治座」)	『斯民』第5編第2号, M43.4
43.4.10	井上哲次郎, 「故熊澤蕃山220年祭」で「蕃山の学説」を講演 (於 「古河小学校」)	『斯民』第5編第3号, M43.5
43.4.24	白仁武, 「第4回孔子祭典会」に参加 (於 本郷「湯島聖堂」)	『斯民』第5編第3号, M43.5
43.4.26	留岡幸助, 「愛知県教育会」・「興農会」計画による「全国青年大会」で「青年と社会」を演説 (於 「大谷派名古屋別院」)	『斯民』第5編第3号, M43.5
43.4.30	井上友一, 「福岡県斯民会」総会で講演 (於 「共進会会場」)	『斯民』第5編第3号, M43.5
43.5.7 ～5.8	押川則吉・国府種徳, この期間の「第6回全国産業組合大会並に中央会発会式」に出席 (於 「愛知県会議事堂」)	『斯民』第5編第4号, M43.6
43.5.9 ～5.10	押川則吉・国府種徳, この期間の「全国篤農家懇談会」に出席 (於 「愛知県会議事堂」)	『斯民』第5編第4号, M43.6
43.5.21 ～5.23	留岡幸助, この期間の愛知県感化救済事業団体主催「全国慈善事業大会」で議事と「特志者の慈善事業」を講演 (於 「愛知県会議事堂」)	『斯民』第5編第4号, M43.6 田代国次郎「日本社会事業成立史研究」童心社, S39
43.6.5	鶴見左吉雄, 「第3回報徳婦人講演会」で「家庭に於ける婦人の手工業」で講演 (於 「東京音楽学校講堂」)	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.6.15 ～6.17?	留岡幸助, この期間の「徳島県報徳実業講演会」・「婦人講演会」で講演	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.6.18 ～6.19	国府種徳, この期間の「滋賀県私立教育会」の「第22回総集会並講演会」で「琵琶湖の文明」・「誘惑と安心」を講演 (於 犬上郡彦根町「明性寺」)	『斯民』第5編第5号, M43.7
43.6.21 ～7.6	多数評議員, この期間の内務省「第3回地方改良事業並感化救済事業講習会」に参加 (於 「文部省修文館」)	『斯民』第5編第5号, M43.7 『斯民』第5編第6号, M43.8 内務省地方局編「第二回第三回地方改良講演集」上, M43.9:「同」下, M44.2
43.6.25 ～6.26	新渡戸稲造, この期間の「千葉県東葛飾郡斯民会教育会聯合大会」で講演	『斯民』第5編第6号, M43.8
43.6.27 ～6.29	留岡幸助, この期間の佐渡における諸会合 (「農会大会」・「斯民大会」・「佐渡愛国婦人会」) で講演	『斯民』第5編第6号, M43.8
43.7.18	多数評議員, 評議員原蔵・「愛知県農林学校」校長山崎延吉・評議員中島力造の送迎会に出席 (於 麴町「富士見軒」)	『斯民』第5編第6号, M43.8
43.8.1 ～8.10	井上友一, この期間の「福島県農会」主催「第2回農村経営講習会」で講演	『斯民』第5編第8号, M43.10
43.9 ～9.15	床次竹二郎・留岡幸助, 8月上旬来の豪雨による水害地視察	『斯民』第5編第8号, M43.10
43.9.15 ～9.26	国府種徳, この期間に山口県・福井県各地で講演	『斯民』第5編第8号, M43.10
43.9.26	桑田熊蔵・留岡幸助, 群馬県主催「篤農家故船津伝次平翁追善会並に故角田県農会副会長の追悼会」及び「報徳講演会」で講演	『斯民』第5編第8号, M43.10
43.9.26 ～10.10	多数評議員, この期間の「第4回地方改良事業講習会」で講演	『斯民』第5編第8号, M43.10 『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.16 ～10.17	三上参次, この期間の「華山会」主催「渡邊華山先生70年祭」で講演 (於 愛知県渥美郡田原町)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.17	国府種徳・桑田熊蔵, 「長岡市教育会」の「第11回総会」で「経済の道德的基礎」を講演	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.18	清水澄, 「新潟県斯民会新潟支部」・「積善組合」主催の講演会で「立憲治下の民は如何なる性質を具ふべきか」を講演 (於 「積善組合仁堂」)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.20 ～10.21	国府種徳, この期間の第3回「長野県報徳講演会」で「高原国の使命」・「報徳は自治の精神也」を講演。中島信虎, 同会で「協同の精神」・「近世文明の特徴」を講演 (於 上田町「男子小学校」)	『斯民』第5編第9号, M43.11

年.月.日	状 況	典 拠
43.10.21	国府種徳,「上田婦人会講演会」で「表と裏との一致を願ひます」を講演。中島信虎,同会で「外国婦人の短所を知られたし」を講演(於「上田女子小学校」)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.24 ～10.25	国府種徳,この期間の「報徳講演会」で「南信小惑」・「推譲は文明の花にして又実也」を講演。中島信虎,同会で「出稼問題」を講演(於 飯田町)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.10.30	岡田良平,教育勅語下賜20年記念「捧読式」で講演会(於「帝国教育会」)	『斯民』第5編第9号, M43.11
43.11.? ～11.30	多数評議員,この期間の「第3回感化救済事業講習会」に出席	『斯民』第5編第11号, M44.1等
43.11.30	久米金弥,「中央慈善協会」の「第3回総会」に出席	『斯民』第5編第11号, M44.1
43.12.1 ～12.3	多数評議員,この期間の「全国感化院長協議会」に出席(於「内務省会議室」)	『斯民』第5編第11号, M44.1
43.12.7	多数評議員,「南葵文庫」の「史跡史樹保存茶話会」に出席(於 東京市麻布飯倉「南葵文庫」)	『斯民』第5編第11号, M44.1
43.12.7	鶴見左吉雄,「伊太利万国博覧会」に関する公務に出席	『斯民』第5編第11号, M44.1
44.1.14	松村茂助・湯原元一,宇田川玄随・玄真父子「贈位報告祭」に出席(於 浅草「哲願寺」内「長安院」)	『斯民』第5編第11号, M44.1
44.2.20	多数評議員,本会の中川望・三松武夫等の「新帰朝者歓迎懇談会」に出席(於 麹町区八重洲町「中央亭」)	『斯民』第5編第13号, M44.3
44.3.7 ～3.9	国府種徳,この期間の埼玉県南埼玉郡七箇村聯合「治本会」の講演会で講演	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.3.11	鈴木馬左也,「大阪懷徳堂記念会」主催「大講演会」で「大阪の偉人」を講演(於「中ノ島公会堂」)	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.3.12	国府種徳,「茨城県多賀郡松原町聯合青年大会」で「元氣ある青年たれ」を講演(於 松原町劇場)	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.3.19 ～3.21	留岡幸助,この期間の長野県北佐久郡望月報徳聯合大講演で講演	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.3.26	国府種徳,千葉県「東葛飾郡水産組合」の「第6回聯合講演会」で「宝の船」を講演(於 船橋町「太神宮客殿」)	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.3.27	留岡幸助,福島県「短期農業講習会」で講演(於 福島県平町)	『斯民』第6編第1号, M44.4
44.4.3	中川(望?),「鹿児島報徳会」の「10周年記念大会」で演説(於 鹿児島市「本願寺別院」)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.5 ～4.19	留岡幸助,この期間の福島県の第3回「3郡聯合物産品評会」で農業政策に関する講話(於 安達郡二本松町)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.10	留岡幸助,福島県「農事短期講習卒業式」で農業政策に関する講話	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.13	小河滋次郎,長野県「松代自強会」の「第3回総会」で「一般救済事業に就て」を講演。留岡幸助,同会で「道徳経済及体力の原因は勤勞に在り」を講演	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.14	留岡幸助,長野県「更級郡自強会」の「第3回総会」で講演(於「通明小学校」)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.18 ～4.22	国府種徳,この期間の香川県三豊郡の第2回「地方改良講習会」で「地方改良の精神」を講演(於 香川県三豊郡)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.23	中島力造,第5回「孔子祭典会」で「孔子教の将来」を講演(於 本郷「湯島聖堂」)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.26	中川(望?),内務省主催「全国感化救済事業大会」で実験談・講話(於 京都「高倉大学寮」)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.4.28 ～4.30	押川則吉,この期間の「全国産業組合大会」に出席。中川望,同会で欧米視察談(於 農商務省)	『斯民』第6編第2号, M44.5
44.5.21	多数評議員,「佐賀県農会」・「佐賀県教育会」・「佐賀県報徳会」の「聯合講演会」で講演(於 佐賀市「願正寺」)	『斯民』第6編第4号, M44.7
44.6.6 ～6.11	中川(望?),この期間の愛媛県「地方改良事業講習会」で講演(於 松山市)	『斯民』第6編第4号, M44.7
44.6.18	多数評議員,千葉県「東葛飾郡斯民講演会」で講演(於 野田町小学校)	『斯民』第6編第4号, M44.7
44.6.25	国府種徳,千葉県東葛飾郡「浦安漁業組合」主催「水産組合第7回講演会」で「海上安全」を講演(於 浦安町の尋常高等小学校)	『斯民』第6編第4号, M44.7
44.6.26 ～7.11	多数評議員,この期間の内務省「第5回地方改良事業講習会」で講演(於 麹町区大手町「中央衛生会」)	『斯民』第6編第4号, M44.7 『斯民』第6編第5号, M44.8
44.7.23	留岡幸助,和歌山県神職団体「和歌山県神職取締所」主催「産業創始功労者頌徳祭」で自治民政に関する講話(於「和歌山県会議事堂」)	『斯民』第6編第6号, M44.9
44.8.25 ～8.26	留岡幸助,この期間の神奈川県中郡主催「5郡聯合報徳講演会」で「二宮翁の偉大なる原因に就て」を講演(於「平塚小学校」)	『斯民』第6編第7号, M44.10
44.10.20 ～11.2	多数評議員,この期間の「第4回感化救済事業講習会」で講演(於 内務省会議室)	『斯民』第6編第8号, M44.11 『斯民』第6編第9号, M44.12
44.10.30	小河滋次郎,「三重県斯民会」の「第3回総会」で講話(於「三重県口病予防事務所津出張所」)	『斯民』第6編第9号, M44.12
45.2.6	留岡幸助,「静岡県報徳社協議会」で「時代の進運と報徳社の態度」を講演(於「静岡県庁」)	『斯民』第6編第12号, M45.3

年.月.日	状 況	典 拠
45. 2 .25 ～ 2 .26	床次竹二郎, この期間の内務省主催の神・仏・基三教代表者の懇談会で演説。 井上友一, 同会に出席 (於 「華族会館」)	『斯民』第 6 編第12号, M45. 3
45. 2 .28	井上哲次郎, 10数名の教育家・宗教家・学者の懇親会に出席 (於 「上野精養軒」)	『斯民』第 6 編第12号, M45. 3
45. 3 .31	留岡幸助, 千葉県「東葛飾郡青年団」発会式で「青年団の精神」を講演 (於 「東葛飾郡会議事堂」)	『斯民』第 7 編第 2 号, M45. 5
45. 4 . 6 ～ 4 . 7	留岡幸助, この期間の「静岡県安倍郡聯合青年大会」で「東西青年会の差異」を演説。横井 (時敬?), 同会で「農村青年の覚悟」を演説 (於 静岡市「宝口院」)	『斯民』第 7 編第 2 号, M45. 5
45. 5 .19	井上友一・原薫, 「千葉県行啓記念講演会」で講演 (於 「千葉町公会堂」)	『斯民』第 7 編第 3 号, M45. 6
45. 5 .21 ～ 5 .23	井上友一, この期間の「第 8 回全国産業組合大会」で演説。下岡忠治・三松武夫, 同会に出席 (於 兵庫県「明石公会堂」)	『斯民』第 7 編第 3 号, M45. 6
45. 6 . 2	床次竹二郎・福原謙二郎, 「朱舜水記念会」を計画・実行。井上哲次郎・三上参次, 同会で講演 (於 「第一高等学校」)	『斯民』第 7 編第 3 号, M45. 6
45. 6 .20 ～ 6 .24	中川 (望?), この期間の第12回「全国各市聯合協議会」で演説 (於 「新潟県会議事堂」。6.23は休会日)	『斯民』第 7 編第 5 号, M45. 7
45. 6 .20 ～ 6 .24	生駒 (萬治?), 新潟市主催「第12回全国各市小学校聯合会」に出席 (於 新潟市「新潟師範学校講堂」。6.23は休会日)	『斯民』第 7 編第 5 号, M45. 7
45. 6 ?	中川望, 長岡市長河島の請により欧米における自治行政の状況を講演 (於 長岡市「商業会議所」)	『斯民』第 7 編第 5 号, M45. 7
45. 6 .25	手島精一, 一般実業家に対して講話 (於 新潟県三條町の高等小学校)	『斯民』第 7 編第 5 号, M45. 7
45. 7 .24	留岡幸助, 福島県「耶麻郡青年会」の「第 2 回青年大会」で「勤労の目的及効用」を講演 (於 喜多方町「旭座」)	『斯民』第 7 編第 7 号, T元. 9

〔備考〕本会とは、「(中央) 報徳会」のことである。

## 〔註〕

- 1) 一般に「中央報徳会」と言われている組織は、設立当初においては「報徳会」が正式名称である。「中央報徳会」と呼称されたのは、機関誌『斯民』の奥付等によると、大正元年頃からのようである。本稿では、明治期における当組織を「(中央)報徳会」と表記した。それは、明治期における当組織と、その影響でつくられた地方斯民会・地方報徳会とを区別する為である。
- 2) 「報徳会則大綱」は、年月が明記されていないが、『二宮尊徳翁紀念書類(上冊)』に岡田良平著『二宮尊徳翁五十年記念帖』(西東書房発行、明治39年3月5日。)と共に収められている。したがって、「(中央)報徳会」による報徳会運動のいわば火付け役となった「二宮尊徳翁五十年記念会」(明治38年11月26日、於「東京音楽学校」)が開催され、それが基で作られた『二宮尊徳翁五十年記念帖』が出版された頃に作られたものと考えられる。
- 3) 『斯民』第5編第2号、「(中央)報徳会」、明治42年4月、をこのように表記する。以下の『斯民』からの引用も、同様の形式で表記する。なお、頁が明確な場合には、出版年月の後に表記する。
- 4) 相田良雄「明府井上友一博士評伝」、『教育』第5巻第12号、岩波書店、昭和12年12月。相田良雄「思出の記」、斯民 15. 4 / T 9. 4 / 29~33。
- 5) 筆者は、「(中央)報徳会」成立を『全国教化団体名鑑』(中央教化団体連合会、昭和4年、P.234。)の記述にしたがって、一応明治38年11月としている。これは、〔註〕2)で前述した「報徳会則大綱」が作られたと考えられる頃にあたる。しかし、明治38年7月24日の「報徳研究会」を『斯民』の言葉であるところの「例会」の第1回とするならば、「(中央)報徳会」成立は、明治38年7月と考えることもできよう。なお、平田東助と久米金弥を抜かして、「報徳研究会」の出席者と「二宮尊徳翁五十年記念会」の発起人は一致している。
- 6) 高橋芳郎『日本の経営史』P.208。
- 7) 前掲「思出の記」P.32。
- 8) 国府種徳「百号に達するまでの多難を回顧す」、斯民 8. 10 / T 3. 1 / 44、振り仮名は省略。
- 9) 田代国次郎『日本社会事業成立史研究』童心社、昭和39年、PP.69~70、による。

## Research Notes

## The Fundamental Materials for Research on “Chuou Houtokukai” during the Meiji Era

Hisanori MAEDA

This paper clarify I. the rules, etc. of “Chuou Houtokukai” (“C.H.”), II. the organization and leaders of it, III. the activities of it.

Preceding studies needs further reexamination with regard to the following points.

- A. They studied “C. H.” according to the politically presupposed framework.
- B. They overlooked such side of “C. H.” that couldn’t be grasped if we drew it a means of disposition of actual problems (ex. counterplan of socialism, financial trouble) after the Russo-Japanese War.
- C. They didn’t necessarily clarify the words of councillors, etc. of “C.H.” which referred to ideas of Houtoku themselves or showed how to apply ideas of Houtoku to practical uses.